日本ジオパークネットワーク機関誌

GEOPARK magazine

GEOPARKS JAPAN 日本ジオパーク

大地と人のジオパーク

創刊記念特別寄稿

世界ジオパークネットワークに加盟した日本ジオパークの貢献

日本ジオパークネットワークの発展を期して

世界・日本のジオパークの審査の仕組み

2013年度JGN表彰記念寄稿

私のジオパーク像

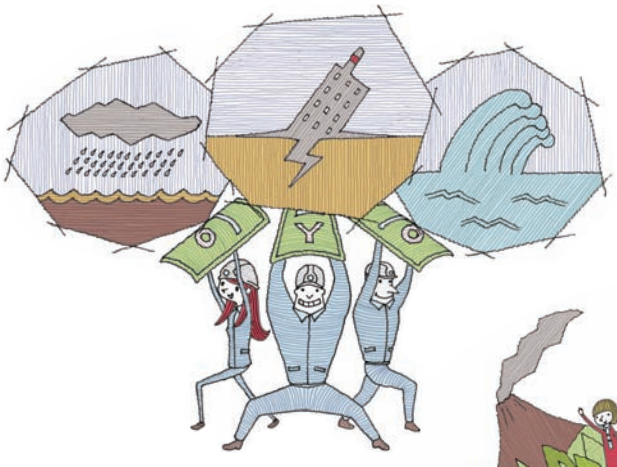
創刊号 vol.1

地球の話をしよう。

防災・減災

自然災害のリスクを明らかにし、
災害対策やリスク回避の方法をご提案します。

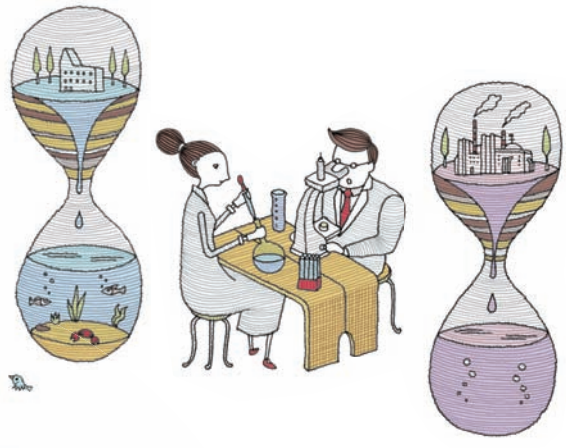
●地震の被害想定（揺れ・津波・液状化）　●地震・火山活動の監視
●土砂災害の軽減・防止　●事業継続マネジメント・計画の支援



環境保全

企業活動が地球環境に与える影響を明らかにし、
その防止、軽減策をご提案します。

●土地の汚染調査・評価・浄化　●放射能の測定・評価
●環境影響評価　●温暖化ガスの地中貯留のモニタリング



あなたのそばで、応用地質。

地盤情報

50年以上に渡る調査により蓄積された国土情報の
中から、必要な地盤の情報をご提供します。

●全国の地質・地盤情報　●土地の災害に関わるリスク情報
●土地の環境に関わるリスク情報　●ビッグデータの活用・評価

計測機器

防災・減災、環境保全、資源開発などに最適な
計測機器の製造・販売を行っています。

●地盤・地質・地下水調査機器　●資源・エネルギー探査装置
●地震・火山・土砂災害のモニタリング機器・システム　●構造物の点検診断装置

第40回 OYO展「防災・減災全力宣言!!」
展示会場を再現したバーチャル展示会、開催中
http://www.oyo.co.jp/oyoshow2013/oyo_panora/index.html

地球の話をしよう。
応用地質株式会社
www.oyo.co.jp

ごあいさつ

2009年5月に日本ジオパークネットワークが発足してわずか5年程ですが、日本におけるジオパーク活動は急速に広がり、現在、全市町村の約1割が当ネットワーク会員の構成団体となっています。この背景には、地域活性化ツールとしてジオパーク活動の有効性が認識され、関係者の積極的な活動により全国に展開されたことがあります。これまでの関係各位のご尽力に、心より御礼申し上げます。

日本ジオパークネットワークとしましては、会員の皆様のご協力によってこれまでの活動を進めてきましたが、今後もネットワークを最大限に活用した情報発信や共有を積極的に行う必要に迫られている状況です。そこで、このたび多くのジオパーク関係者のご協力をいただくなかで、JGN機関誌『GEOPARK magazine』を創刊する運びとなりました。ジオパークの普及啓発はもちろんのこと、日頃のジオパーク活動で感じているさまざまな思いやお困りの問題などを共有する場としてもご利用いただき、より高品質でかつ持続可能なジオパークを目指す上での一助になれば幸いです。

ぜひ多くの皆さまにご活用いただき、関係各地域のさらなる発展をご祈念申し上げ、創刊にあたってのご挨拶といたします。

2014年3月

特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク 理事長 米田 徹

日本ジオパークネットワーク機関誌　創刊号 vol.1

GEOPARK magazine

CONTENTS

創刊記念特別寄稿

2 世界ジオパークネットワークに加盟した日本ジオパークの貢献

4 日本ジオパークネットワークの発展を期して

6 世界・日本のジオパークの審査の仕組み

2013年度JGN表彰記念寄稿

8 私のジオパーク像

2013 日本ジオパーク新規認定地域

10 三笠ジオパーク

12 三陸ジオパーク

14 佐渡ジオパーク

16 四国西予ジオパーク

18 おおいた姫島ジオパーク

20 おおいた豊後大野ジオパーク

22 桜島・錦江湾ジオパーク

24 とかち鹿追ジオパーク

26 本音トーク座談会 これでいいのかジオパーク

30 海から見たジオパーク

32 ジオ鉄 大地の物語を読み解く鉄道旅行

34 秋田VS南九州 うんちく食文化

読者のページ

36 ガイドの目

38 VOICE

40 新米ジオ女のつぶやき

41 2013 日本ジオパークネットワークの活動から

42 全国ジオパークマップ

47 各ジオパークからの素敵なプレゼント

48 編集後記

創刊記念
特別寄稿
contribution
1

世界ジオパーク：地球遺産の保全と持続可能な地域発展

世界ジオパークネットワークに加盟した日本ジオパークの貢献

世界ジオパークの歩み

ジオパークの概念は、重要な価値をもった生物以外の自然を含む地域の持続可能な発展を通して、地球遺産を保護し活用することを目的として、1990年代後半に導入されました。

ジオパーク構想は、社会経済的、文化的発展と自然環境の保全との相互作用の可能性に光を当てることによって、1972年の世界遺産条約に新たな一面を付け加えています。

活発で効果的なジオパークの活動は、主に、科学調査、ジオサイトのリストと地図の作成、ジオサイトの保護・活用とガイド、壊れやすいサイトや化石の保全、公園の整備、ジオサイトとエコツーリズムの基盤設備をつなぐ遊歩道の整備、ジオサイトに関する教育プログラムの開発、科学的文化的行事の企画、ジオツーリズムと持続可能な発展の促進など多岐にわたります。

同時に、世界ジオパークは、地球科学の知識を実践するための自然の実験室であるとも言えます。適切に恵みを享受し

世界ジオパークネットワーク事務局メンバー／
ギリシャ・エーゲ大学教授／ギリシャ・レスボス石化林自然史博物館館長

ニコラス・ゾウロス

災害を避けるために、地球という惑星、自然現象、地球力学プロセスに関する人々の知識・関心を高めます。

世界ジオパークは、ジオハザードと防災に関する社会の反応を活発にします。

世界ジオパークネットワーク（GGN）が2004年に設立されてから10年、この素晴らしいネットワークは成長を続けています。今日、重要な地質学的遺産を有する30カ国100地域が、経済的、社会的な地域発展につながる、活発で持続的、包括的な成長のための、戦略実践の有効なツールとして、ジオパークを運営するために、新たな課題に取り組んでいます。

活発な日本のジオパーク

2009年から、日本のジオパークは世界ジオパークネットワークに加わり、アジア太平洋地域の最も活発なジオパークのグループの一つとなりました。最も活発で生産的、創造的な国内グループの一つとなったのです！ 日本ジオパークネットワークと日本ジオパーク委員会の設立を通して、日本の世界ジオパークと日本の関係機関、関連組織、関連団体は、国際会議、促進活動、ワークショップなどで日本におけるジオパーク概念の普及促進に取り組んでいます。

この機関誌は、日本ジオパークネットワークの新たな取り組みの象徴です。また、世界認定を受けた6つの世界ジオパークを含む33のジオパークの共同の表現の場であり、日本のジオパークのユニークな美とジオサイトの価値、地質地形を楽しむために日本の人々をいざなう架け橋となるでしょう。このように、日本のジオパークは、社会に地球遺産の価値を最大限に伝え、教育し、利益を得るために地域社会と共に取り組むといった、ジオパークの主要な目的に重要な貢献をしています。

日本の6つの世界ジオパークには、ユニークな特徴があり、地質学的歴史とわれわれの惑星の進化の興味深い一面を見せてくれます。

【糸魚川】新潟県にあり、日本の主要な2つの構造プレートの間にあります。世界最古のヒスイ文化があり、地球と人間の関係をテーマとしています。

【洞爺湖有珠山】日本の北部、北海道にある火山地帯。変動する地球と人間との共生をテーマにしています。

【島原半島】日本の南部、九州にある火山とその噴火災害の野外博物館であり、活火山と人間の共生を重視しています。

【山陰海岸】京都、兵庫、鳥取にわたる日本海沿岸地域。めずらしい沿岸の地形サイトや多様な地層、鳥取砂丘や温泉などがあります。

【室戸】四国にある太平洋沿岸地域で、海岸に突き出した岩が特徴的です。海水準の変化と巨大地震によって形成された地域です。

【隠岐】日本海に浮かぶ島々。島根県にあります。日本列島とともに大陸から分離し、氷河期には本州とつながっていたと考えられています。多様なタイプの岩があることで有名です。野生生物もたくさんいます。

日本の世界ジオパークは、地質学的遺産を保全し、地球科学のさまざまな分野での科学的研究の発展を支援するため、革新的な方法を試み、向上させて発展しています。日本の世界ジオパークは、気候変動や自然災害（地震、津波、火山噴火、地滑り、液状化現象）に関する人々の知識や意識を向上させる野外教室として、とても分かりやすく有効に機能しています。また、ジオパークは、効率的でよく組織された教育活動を野外公園、テーマ別の博物館やガイドのセンターで実施しており、環境教育にも広く活用されています。

日本の世界ジオパークは、それぞれの地域のアイデンティティを定義づける地球遺産資源をベースとした、ジオツーリズムの開発を支援しています。また、旅行者のためにさまざまな設備を開発しています。ジオパーク内の野外公園やガイド案内をしているジオサイトには、毎年何千人もの人が訪れています。サイト間をつなぐ遊歩道は各ジオパークの重要な設備です。遊歩道には、さまざまなジオサイトの説明看板を設置し、自然美や生態学的価値のあるサイト、文化的建造物など、ジオパークの興味深いサイトを結んでいます。

日本の世界ジオパークは、直接、または間接的に新たな仕事を生み出すことで、地域の持続可能な発展に貢献しています。また、地域の雇用に関してさらに重要なことは、観光業、小規模なホテルや民宿、レストラン、ジオパーク内での観光客の流れの増加に関連する他の活動における雇用機会の拡充です。手工芸品や陶器化石の製造者などの地元の職人は、ジオパークと永く協力し合うパートナーです。ジオパークは、地元の食べ物の味見や購入の機会を提供します。ジオパークは、地域の生産物、食べ物、飲み物の質を向上させ、生産者と潜在的な顧客を引き合わせます。

このようにして、ジオパークを訪れたら、豊かな自然遺産や生態学的審美的価値の高いサイトだけでなく、文化、伝統、その地域の生産物を体感することができます。

この機会を逃すことなく、ぜひ日本のジオパークに行ってみましょう！

創刊記念
特別寄稿
contribution
2

日本ジオパーク ネットワークの 発展を期して

日本ジオパーク委員会委員長
京都造形芸術大学学長／第24代京都大学総長
尾池和夫

地方紙に見るジオパーク小史

２０１４年になって、昨年１年間に日本全国の新聞記事を「ジオパーク」というキーワードで検索すると３８８４件の記事が検出された。全国紙では、読売新聞が３３３件、朝日新聞が２９６件、毎日新聞が２２５件、日経各紙が69件、産経新聞は10件であった。

新聞記事に取り上げられたジオパークのニュースをたどると、日本のジオパークの歴史をそのまま見ることができる。ジオパークの基本はその地域の住民の力で、ボトムアップで推進されるということにあり、その力が組織され、行政や経済界などの支援で持続可能な形で進められる姿が重要である。その成果を見るためには、私は新聞記事、とくに地方紙に書き残された記事に頼るのが一番いいと思っている。

日本のジオパーク全体の歴史を概観するのに、まず新聞記事の掲載数が２０１３年の３８８４件に至るまでに、どのように増えてきたかを見てみよう。全国の新聞記事を日経テレコムで検索すると、最初にたった1件の記事が現れたのが、２００４年の神戸新聞の記事であった。「山陰海岸の重要性説く、香住、地質学者らフォーラム」というタイトルで地方版に写真入りで載った。記事の中で注目されるのは、まず冒頭、「講演があり、神戸大大学院自然科学研究科の波田重熙教授が、日本列島が現在のユーラシア大陸から分かれ、山陰海岸が形成された過程を説明」という部分である。山陰海岸ジオパークの見所が日本海の形成という点にあるということを、機会ある毎に私はかつて現地の方たちに強調してきたが、実は最初からその視点が記事になっているのである。

次いで、２００５年17件、２００６年24件、２００７年１６２件と、各地で準備されているジオパーク候補地が紹介され、２００８年には８０６件の記事が残された。例えば、５月30日、朝日新聞の佐々木英輔記者による「ジオパーク」の日本委員会発足という記事で、「特徴ある地質や地形を保存して教育や観光に生かす「ジオパーク」の日本委員会が28日、発足した。世界遺産のように国際組織が審査してお墨付きを与えるものだが、日本にはまだない。委員会は10月にも候補３カ所を選び、来年の国内第１号誕生を目指す」というものであった。世界ジオパークのことと日本独自のジオパークの認定の仕組みが初めて紹介された。

２００９年、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島が世界ジオパークの仲間入りしたことが大きな話題となり、新聞記事は１８２７件となった。２０１０年２０９２件、２０１１年３５４０件、２０１２年３４７４件と増えてきた。この増え方を見ながら、ある時期、「ジオパークとはどういうものですか」と質問した記者に、「えっ、まだジオパークをご存じないのですか?」と聞き返すことを繰り返したのを思い出した。

２０１３年末と新年を迎えての記事では各地の10大ニュースなどにジオパークのことがたくさん登場した。毎日新聞地方版では「三陸ジオパークが日本ジオパークに認定」があげられ、西部読売新聞では、大分県が発表した今年の県政10大ニュースで四位が「姫島村と豊後大野市が日本ジオパークに」であったと伝えた。伊豆新聞では「伊豆半島この一年」で「伊豆半島ジオパークに清水町、長泉町が加わった。ジオサイトは１１４カ所に」と書いた。地域指定のこのような変更がいくつかあった。さらに伊豆新聞は「伊豆半島ジオパークは来年、世界認定の前年にあたり箱根など強力ライバルひしめく中で、まず国内推薦を勝ち取らなければならない重要な年になるとみられる」と強調した。

十勝毎日新聞の記事では、「とかち鹿追ジオパーク」の認定が９月に「保留」になったのには驚かされたが、晴れて認定されたという記事が載り、「ただ最初に用意したくす玉は結局、割れなかった」と書いてあるのを、複雑な思いで読んだ。

新年を迎えても元旦からジオパークの記事が出た。静岡新聞は、「地域の宝残したい」という特集で、世界遺産登録を果たした富士山などとともに、南アルプスや伊豆半島の世界ジオパークを目ざす方針を紹介し、「伊豆ジオパーク－ガイド活動10年」として、伊東市の元中学教諭斎藤俊仁さんの「伊豆が持っている素材の価値は世界レベル」「ここは宝物なんだと気付くことで、保全も含めたさまざまな活動が進むはず」という言葉を紹介し、住民への普及役を担うジオガイドの活動の重要性を書いている。

ウェブサイトの情報に関しても、以前は「ＮＨＫスタジオパーク」ばかりがヒットして悔しかったが、今では「ジオパーク」で検索するとｇｏｏｇｌｅでもＹａｈｏｏでも、１１５万件を超える情報がヒットするようになった。最近、辞書を引くと、ジオパークという項目が立って、『デジタル大辞泉』の解説が出てくるようになった。

見る・食べる・学ぶための大地の公園

ジオパークの呼び方をカタカナにすると決めたのは、日本ジオパーク委員会の最初の議論によるが、私自身は、日本語の説明を加えるときに、「見る・食べる・学ぶための大地の公園」と表現する。とくにこの「食べる」が重要だと思っている。

日本ジオパークネットワークを構成する自治体の名簿によると、ジオパークと何らかの関連を持つ都道府県の数が３７になった。関連する市が98、町が76、村が26である。全国の市町村の１割を超える合計２００市町村が関連している。

昨年、山陰海岸ジオパークについて、同推進協議会が京阪神の２００名にアンケートを実施した。その結果によると、10歳から20歳代の７割以上が、この山陰海岸ジオパークを知らないと回答した。40歳代以上では半数以上が知っていたものの、まだまだ知られていないと思われる結果である。地域別では、「少し知っている」を入れて、神戸や大阪の約55％に対して京都は40％だった。

京都の人たちにももっとジオパークのことを知ってほしいと考えて、私は京都発の旅行商品を開発しようと思っている。旅行関係会社の京都支店長たちに集まってもらって議論し、京都から旅行グループを送り出し、現地のジオガイドと契約して実施する着地型の旅行を企画することを目標に、まず試みに自分たちで実践してみることになった。行き先は室戸ジオパークとして、伊丹空港から高知へ向かい、現地のガイドの和田さんと室戸ジオパーク学術専門員の柴田博士と合流して、ジオサイトと金目鯛の味を楽しんだ。土佐湾に沈む「だるま夕日」を見られたのがうれしかった。

ジオパークを、一人でも多くの人びとに知ってもらうということを最大の目標として、さまざまのタイプの活動を、日本ジオパークネットワークの皆さまと連携しつつ実施し、「見る・食べる・学ぶための大地の公園」を広めていきたいと、私は思っている。

創刊記念
特別寄稿
contribution
3

世界・日本のジオパークの審査の仕組み

日本ジオパーク委員会事務局／産業技術総合研究所地質標本館
渡辺真人

世界と日本のジオパークの考え方は年々進化していて、審査の仕組みもそれに応じて変化しています。まずは今の仕組みがどんな考え方をもとにしてどうなっているかを解説して、次に今後どうなっていくか私の見方に基づいて述べます。

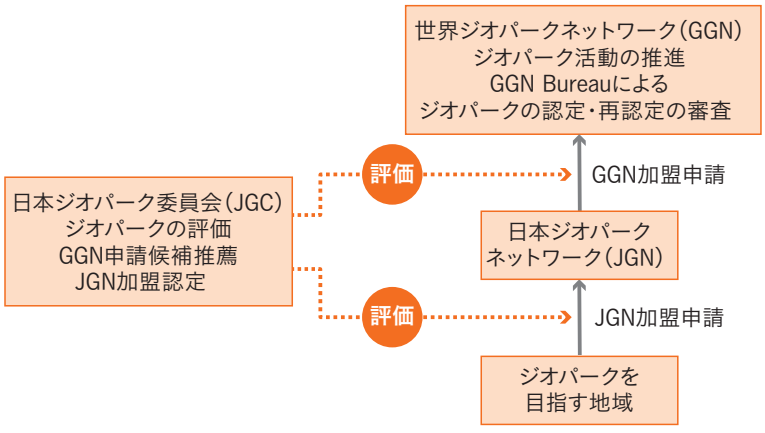
ジオパークの仕組みで大事なことは、ジオパークネットワークのメンバーになることがジオパークになることだ、という点です。2000年にヨーロッパジオパークネットワークが設立されて以来、ネットワークがジオパークの考え方の基本です。

大事なもののリストを作って社会に広めるとともに、行政の仕組みとしてそれを守る体制とお金を用意して、大事なものを守るのが世界遺産や天然記念物の仕組みです。ジオパークは、大事なものがある地域とそこに住む人が、大事なものを守るためにはどうしたらいいか、大事なものをなくならないように使って地域の人が元気になるにはどうしたらいいか、をみんなで考えて実行するためのネットワークなのです。ですから、ジオパークの審査では、審査を受ける地域がネットワークの一員として活躍し、ジオパークの理念を実現する具体的な実践をネットワークに見せてくれるかどうか、が審査の大事なポイントです。

左頁の図にあるように、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟を認められると世界ジオパーク、日本ジオパークネットワーク（JGN）に加盟を認められると日本ジオパークです。日本の審査の方法や基準は世界の審査のものを下敷きにしていますので、基本的には世界と同じですが、GGNは自ら審査を行うのに対して、

JGNは外部にある日本ジオパーク委員会（JGC）が審査するところが違います。

ネットワークの一員になるかどうかを審査するという観点からは、審査はネットワークのメンバーが中心となって行うことが自然です。一方、審査の信頼性を確保するには、第三者である専門家の審査機関が必要であるという観点もあります。GGNの審査の仕組みは前者の観点から立ち上がっており、JGCによる審査の仕組みは後者の観点から立ち上がっています。これが前述の違いを生んだのです。



2004年からGGNの審査を行っているBureauのメンバーの過半数は各国のジオパークに関わる人、つまりネットワークのメンバーで、科学者とジオパークの運営に関わる人の両方がいます。この人たちがBureauを主導し、ネットワークのメンバーが必要とする専門家をBureauに加え、さらに新たにネットワークを拡げたい地域の関係者をメンバーに加えてBureauが運営されています。地質学の専門家としてIUGS（国際地質科学連合）から、自然保護の専門家としてIUCN（国際自然保護連合）から、さらにまだジオパークのないアフリカと中南米のユネスコ関係者がジオパーク外のメンバーです。ネットワーク主導の審査の仕組みと言って良いでしょう。「ジオパーク」という考え方を作り出し、それを実際に実現した人たちが集まって作ったネットワークが先にあり、そのネットワークが審査の仕組みを作って新たなメンバーを増やそうとしたので、JGNとJGCのある日本の仕組みと違いGGNの外側の「GGC」がないのです。

一方、日本では日本地質学会を中心とする地球科学の関係者が主導して、まだ日本には存在していないジオパークを、社会に広めようとしました。広めるにはどこかにまずジオパークがないとわかってもらえません。GGNにどこかの地域を申請して日本にも世界ジオパークを作るために、またジオパークの考え方を広めるためのモデル地域になる国内版ジオパーク、日本ジオパークをどこかに作るために、まずJGCを立ち上げました。日本にこれまでなかったジオパークを社会に認識してもらうために、ジオパークは専門家がきちんと審査している仕組みである、と社会に信用されるような委員会としてJGCを立ち上げました。ネットワークより先にJGCがあったのです。ただし、すでにGGNの考え方を（不十分ではありましたが）理解してジオパークを目指そうという地域がすでにあったことが、JGCが立ち上がった背景にあることも忘れてはなりません。

さて、この二つの少し異なる審査の仕組みは今どう変化しようとしているでしょうか。ご存じのように、ジオパークをユネスコの中に公式に位置づけようという動きがあります。このために、ユネスコとGGNは審査を行う組織をGGNと連携する別組織にして審査が公正に行われることをより見えるようにすることを検討しています。一方日本では、2012年からJGC委員を補佐する形で各ジオパークの人たちが審査に関わり始め、2013年からはJGC委員とともに各ジオパークから選ばれた人たちが現地審査を担当するとともに、審査基準の見直しなどの議論をJGC委員とともに行っています。つまり、ネットワーク内部での審査からはじまったGGN、外部委員会であるJGCのどちらの仕組みも、ネットワーク内部の人+外部の専門家で作る、ネットワークと関係の深い外部委員会という形に落ち着きつつあると言えるでしょう。これはおそらく、現時点でのジオパークの審査にふさわしい仕組みだからそこに落ち着くのではないかと私は考えます。

日本のジオパークは急速に普及し、日本ジオパークを含めた数ではヨーロッパに迫る勢いです。ジオパークの理念を実現するために、活動の質を上げていくことが今後の課題です。そのためには、ジオパークの活動に携わる人が審査に深く関わり、「良いジオパークとは何か」をJGNを通じて議論することが重要であると私は考えます。現在、JGCとともにそうした議論を行っている現地審査員だけでなく、ジオパークに関わる多くの人が、JGN大会や研修会、事務局会議や理事会でジオパークについてもっと深く議論するようになれば、日本のジオパークは良いものになることでしょう。

2013年度
JGN表彰
記念寄稿

私のジオパーク像

岩松暉
いわまつ あきら
鹿児島大学名誉教授／静岡大学客員教授／(公社)鹿児島県地質調査業協会理事／㈱防災地質研究所長

日本におけるジオパーク生みの親として、当時どのようなジオパーク像を描いていたのかと、編集部から寄稿依頼がありました。ジオパークは基本的にユネスコのガイドラインに則っているものであり、時代と共に変わってもいくでしょうから、何ほどの参考になるか分かりませんが、往時を回顧してみたいと思います。

ジオパークを始めた動機

ジオパークを始めたのは２００４年のことです。今まで守秘義務で隠されてきた地質地盤情報を国民共有の知的公共財として利活用しようと、元情報地質学会会長だった私の定年退官を待って、ＮＰＯ法人地質情報整備・活用機構が設立されました。このＮＰＯの目的は名称通り地質情報の利活用ですが、その他に地学の普及ということもありました。

この災害列島に住む日本人の地学リテラシーがあまりにも低いことを常々遺憾に思っていましたので、同年六月北京で開かれたジオパーク国際会議に関心を持っていましたが、その年の暮れ、インド洋大津波が起きました。津波は小泉八雲のお陰で英語になっています。地震の直後、日本人観光客が「ツナミだ！」と叫んで逃げてくれれば、それだけで通じますから、どれだけ多くの命が助かったか分かりません。大きな国際貢献になっていたはずです。それなのに地震国に育った日本人が悠然とビデオカメラを回していたのです。そのために亡くなった方もあるかと思います。ところが津波のない英国の少女が「津波がくるかも知れない」と母親に伝え、ホテル従業員を避難させたそうです。こんなことで良いのでしょうか。「稲むらの火」の教訓がすっかり忘れ去られています。地学を国民教養にする必要性を痛感しました。

第二は人づくりです。国立科学博物館の展示に衝撃を受けました。親指ほどの細い縄文人の骨が飾ってあり、「生まれながらの小児麻痺だったが、手厚い介護で天寿を全うした」と解説にありました。どんぐりを求めて流浪していたあの狩猟採集の時代です。大地の子・縄文人は心優しかったのです。しかるに飽食の時代の現代日本はどうでしょう。親殺し・子殺し・虐待と耳を覆いたくなる話ばかりです。一億総都会人になって、感性が麻痺したのではないでしょうか。子供たちを自然の中で心豊かに育てたいと強く思いました。

第三は地方です。一極集中で地方は疲弊しきっています。当時長野大学教授だった大野　晃氏は、「過疎」ではなく、批判覚悟で敢えて「限界集落」という言葉を使っておられました。私の住む鹿児島県も例外ではありません。１７０万県民の三人に一人が鹿児島市民で、極端な一極集中です。地質調査で山間部の集落に行ったら、チャンとした家があり、農機具などそのまま立てかけてあるのに、人っ子一人いません。子供の笑い声どころか、犬も猫も鶏も鳴いていないのです。明るい日差しの中でのこの光景は、崩れかけた幽霊屋敷よりも、背筋が寒くなり

ゾッとしました。

地方の再建は待ったなしの状況なのです。その後２００７年には夕張市が財政破綻しました。ユネスコジオパークの定義には、持続可能な地域社会の発展という文言があります。何とか地域おこしのツールとして使えないかと思いました。

5つのキーワード

ジオパークを知っていただくために、全国を講演行脚して回りました。もちろん、ジオとエコやユネスコのガイドラインのことなどは当然触れましたが、設立・運営の留意点として、次の五つについて強調しました。観光の単なる道具と見なされては困ると思ったからです。

①ボトムアップ

今まで地方は中央の収奪の場でした。教育費をかけてセッセと人材を養成します。彼らは働き盛りには中央でセッセと納税します。そして老いたら故郷に帰ってきて、介護費用は地方負担なのです。一方、地方自治体も交付金頼みの受け身の姿勢で、目は中央ばかり向いています。

地元は逃げ出せないのですから、性根を据えて、地元の資源・遺産・人材そして知恵を活用して、真の意味の地域主権を確立する必要があります。ＧＤＰ至上主義から発想を転換し、民主導でこの国のカタチを変えたいものです。今のはやり言葉で言えば「里山資本主義」を実現したいと思ったのです。

②ソフト

従来の国主導プロジェクトはハコモノ主義で、地方は結局中央業者の食い物にされてきただけです。地域に既にある宝を再認識し、それを前面に出していきましょう。そのためには物語を語れる暖かな人間性を持った語り部が重要です。人こそ要です。地質地形だけでなく、動植物も歴史も語れるマルチ人間が必要です。一方、こうした活動を通じて子供たちに地元に誇りを持ってもらい、感性豊かに育っていって欲しいと思います。そうすれば地元に定着する子も出てくるのではないでしょうか。

③サステナブル

認定が自己目的化しては困ります。一時的ブームに終わらせることなく、細く長く続くことが重要です。そのためには、何らかの経済的裏打ちも必要です。ジオツーリズムで交流人口を増やすこともその一つですし、住民自らが政策企画立案能力を身につけ、草の根から地域を再生していくことも視野に置いておくことが必要なのではないでしょうか。

④コラボレーション

自然界はもともとシームレスです。エコだ、ジオだ、と境界を設けたのは人間です。エコとジオだけでなく、郷土史など各方面との協力協働を推し進め裾野を広げましょう。お役所も、教育は教育委員会、観光は観光課、防災は危機管理課と縦割りで先例墨守、相互の連携がありません。ジオパークはその壁を打ち破り、自治体が一丸となって町おこしに立ち上がる機会を提供するのではないでしょうか。さらには、産官学、国と地方、観光協会、商工会、農協、漁協などとも立場の違いを乗り越えて協力し合いましょう。

⑤ホスピタリティ

四国遍路が何百年も続いているのは、地元に「お接待」の風習があるからです。山形の芋煮会も外向けの観光行事ではなく、住民自身が楽しんできたからこそ、人が集まってくるのです。住民が郷土に誇りを持ち、幸せに暮らしていることが最大の観光資源なのではないでしょうか。何よりも子供たちに郷土愛と真心を育て、おもてなしの心を身につけさせる教育が重要と思います。

まとめると、地元に既にある地質遺産や人文遺産など地域の宝に皆が誇りを持ち、それを前面に出してジオツーリズムを展開し、域外から多くの方々に来てもらうと同時に、地域に新たな産業を起こし、地域を活性化していくことが重要です。企業誘致やマネー資本主義に未来はありません。西洋史の木村尚三郎先生は「商業で世界を制覇したオランダやポルトガルは衰退したが、第一次産業を一貫して大事にしてきたフランスは、今でも世界政治と文化の中心にいる。カルチャーの語源はラテン語の耕すだ」と言っておられました。地に足の着いた発展策を模索しましょう。皆が幸せで活気に満ちたところにはリピーターも来ます。フランスは観光大国でもあります。

ダメ押しですが、ユネスコの正式名称は国連教育科学文化機関です。教育が一番先に来ます。観光振興が主目的でないことを肝に銘じておいてください。

「日本ジオパークネットワーク表彰」について

この表彰は、日本におけるジオパーク活動の普及発展に寄与し、その貢献が特に顕著な個人もしくは団体を顕彰する目的で定められたものです。2013年10月15日第4回日本ジオパーク隠岐大会にて、栄えある第1回受賞者として岩松暉さんが顕彰されました。

岩松暉さんは、2004年に設立されたNPO地質情報整備活用機構（GUPI）の専務理事、会長としてジオパークの調査を進め、関係学会や環境省等との調整役として奮闘されました。2007年10月のジオパーク連絡協議会では発起人として、同年12月のジオパーク連絡協議会設立時には事務局長として活躍され、以降、2009年5月に日本ジオパークネットワークが設立されるまで、今日のJGNの基礎を築かれました。

旧幾春別炭鉱錦立坑櫓　かつて地下約197mの深さまで人や資材を運んでいた現存する道内最古（大正9（1920）年完成）の炭鉱の立坑櫓（選奨土木遺産）

北海道三笠市　**三笠ジオパーク**

さあ行こう！一億年時間旅行へ

アンモナイトが海を泳いでいた一億年前から、炭鉱まちとして栄えた現代まで、一億年の時間旅行を気軽に楽しむことができる場所、それが三笠ジオパークです。

三笠ジオパークでは、世界的にも有名なアンモナイトをはじめとする一億年前の生命の痕跡、石炭という大地の遺産の恩恵を受けながら暮らしてきた、炭鉱まち特有の文化を感じることができます。

一億年前の海の世界に触れる

三笠ジオパークの東側には、約一億年前の海の底でできた地層が分布しており、日本でも有数の一大化石産地となっています。なかでも保存の良いアンモナイトが豊富に産出することで知られ、〝三笠〟を学名に使用した種類も多く報告されています。その研究は古く、明治中期から始まっており、現在も毎年新しい発見が続いています。

別名〝化石の博物館〟と呼ばれる三笠市立博物館では、三笠をはじめとする北海道内で産出したアンモナイト化石が約80種600点展示され、一億年前の生命とその進化の歴史を知ることができます。

5千万年前の大地の遺産と人々の営み

三笠には、石炭という大地の遺産を活用した人々の歴史があります。当地の近代史は、明治元（1868）年、石炭の発見をきっかけに幕開けしました。そして炭鉱が開鉱し、石炭輸送に必要な鉄道（幌内鉄道）が敷設、炭鉱の担い手を確保するための空知集治監（刑務所）が設置され、ついには村が開村しました。いわば、まちの形成そのものが、〝ジオ〟と密接に関わってきた場所なのです。

当地の発展に重要な役割を果たした石炭は、今から約5千万年前の湿地に生息していた植物が地層の中に埋もれ、高い温度と圧力によって変質してできた岩石です。その〝燃える石〟石炭を活用して、当地は炭鉱まちとして栄え、特有の文化や風習も生まれました。現在もその歴史や文化が残されており、炭鉱櫓をはじめとする炭鉱施設の遺構や盆踊りなどから知ることができます。

大地の恵みが詰め込まれたワイン

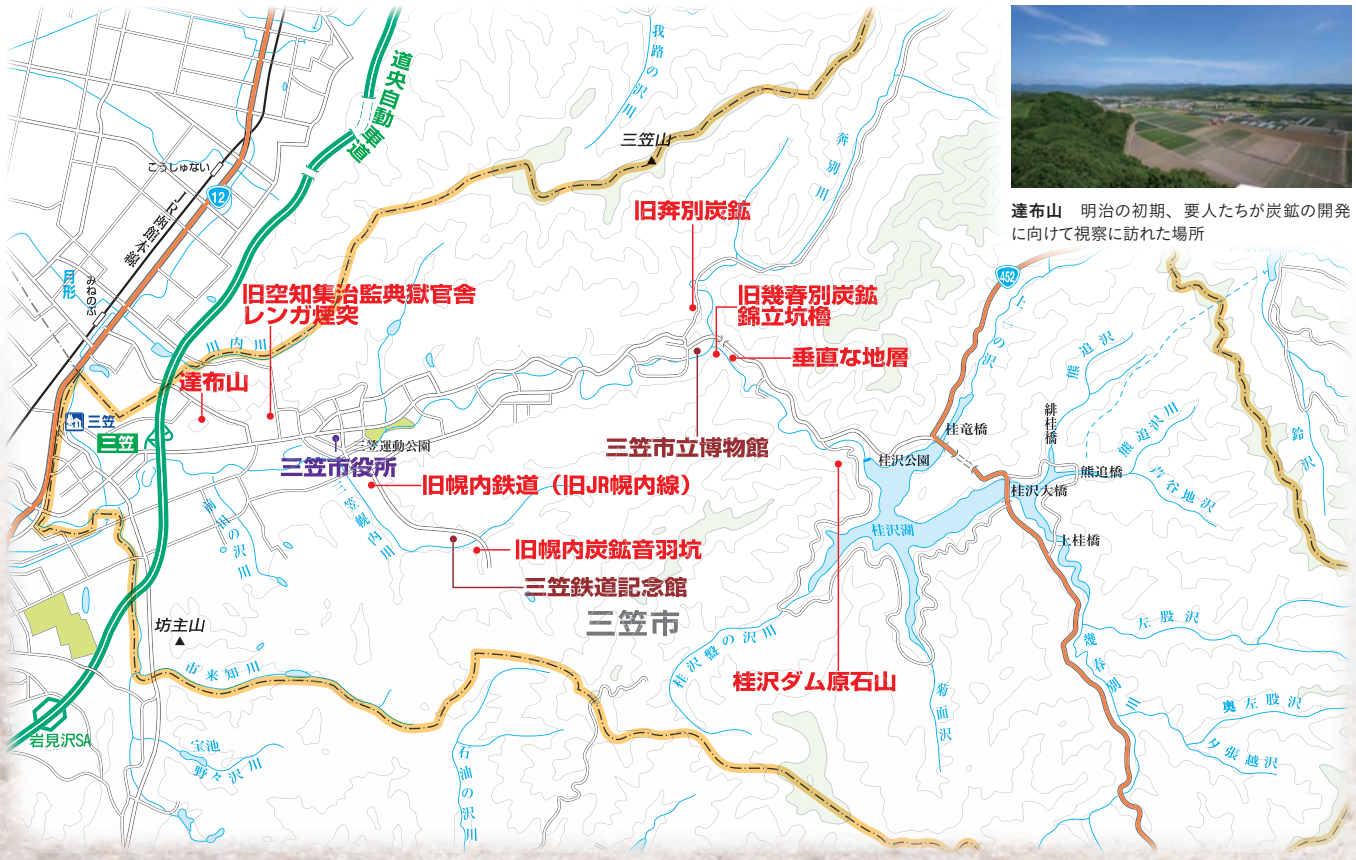
石狩平野を一望できる達布山（アイヌ語のタプ・コプが語源：頂上の丸い山の意）には、明治初期に、榎本武揚、山県有朋など数多くの要人が訪れ、開拓計画を立てたと言われています。

現在この山の周辺では、斜面を利用したワイン用のぶどうが広く栽培されており、大地の恵みをたっぷり吸ったぶどうによって造られたワインは、その年、三笠で起きた歴史が風味として瓶に詰め込まれていて、まさに、三笠の「ジオ」を味わうには最高の一品です。

三笠市立博物館　アンモナイトの展示数日本一の博物館

三笠鉄道記念館　幌内鉄道の偉業を伝え、道内の鉄道交通の歴史と文化を紹介している施設

達布山　明治の初期、要人たちが炭鉱の開発に向けて視察に訪れた場所



垂直な地層　大地の力で地層が垂直になるほど押し曲げられた、約5千万年前の石炭を含む地層

1 石炭をイメージしたザンギ　イカ墨を使ったまるで石炭のような鶏肉のから揚げ。三笠産の素材を使用したオリジナルのタレで味付け。道の駅三笠で買える
2 山崎ワイン　自身の農園で栽培されたぶどうのみを使用し、かつ醸造まですべて行うこだわりのワイン

【問い合わせ先】三笠ジオパーク推進協議会事務局（三笠市立博物館内）　☎01267-6-7545　hakubutsukan@city.mikasa.hokkaido.jp　http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/

※新規認定地域（10～25頁）のMAP中、赤の文字は「ジオサイト」茶の文字は「ジオに関する施設」紫の文字は「その他の見どころ」を表しています。

唐桑半島御崎（気仙沼市） 海神が船を着けたとされる半島の先端は、2億5千万年前に海底に堆積したシマシマの地層でできている

青森県八戸市・階上町・岩手県宮古市・久慈市・釜石市・大船渡市・陸前高田市・洋野町・山田町・岩泉町・大槌町・住田町・野田村・普代村・田野畑村・宮城県気仙沼市

三陸ジオパーク

震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ

三陸ジオパーク

三陸ジオパークは、北上山地の東部に位置し、青森・岩手・宮城の3県16市町村からなる、日本最大のジオパークです。三陸の大地は地球史を語る上で欠かすことのできない、およそ5億年前まで連続的に遡れる大地の記憶が眠る場所。そして、東日本大震災をはじめとする、震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域です。

三陸の大地の魅力

三陸地域の大地は、場所、環境が異なる2つの大地が、ひとつになったものです。南側はおよそ4億4千万年前頃、赤道付近にあった大陸の一部が移動してきたものです。一方の北側は、およそ3億2千万年～1億4千万年前に海底でできた岩石がプレートの運動によって大陸側にこそぎ取られたものです。それらが1億4千万年前頃までにひとつになったと考えられています。

さらに、それらの大地を貫いた、およそ1億2千万年前頃のマグマ活動や、数百～数十万年前からの隆起や侵食など、さまざまな地球活動によって、現在の地質、地形、鉱産資源が形成されました。そのため、南北に縦断すると、バラエティに富んだジオサイトを楽しむことができます。

東日本大震災の記憶

プレートの沈み込み帯である三陸地域は、これまでも地震・津波が繰り返されてきた地域です。過去の津波被害を伝える石碑や人々の生活習慣に防災文化が残されているほか、東日本大震災津波を直接的に伝える震災遺構の保存も市町村を中心に進んでいます。

各地では、震災の被害と復興の状況を伝える語り部ガイドが活動しています。地震・津波のメカニズムや津波被害への対処方法など、リアルな防災教育を行う学習フィールドです。

豊富な海産資源

三陸地域の沖合は、北からの寒流と南からの暖流がぶつかるため、世界有数の漁場となっています。沿岸

北山崎（田野畑村） 200m近くの断崖が約8km続く三陸の絶景。数十万年続く隆起と侵食が造った景観はサッパ船に乗って海からも楽しめる

種差海岸（八戸市） 江戸時代、この芝生地では馬が育てられていた。馬産地、南部藩を支えたなだらかな平坦地は、かつての海底が隆起した土地

1 たろう観光ホテル（宮古市） 津波により3階まで壊滅的な被害を受けたが、津波の脅威を伝え、防災教育の場として保存・活用されている **2 高田松原の一本松（陸前高田市）** 約7万本あった松が津波に流された中、たった1本残った松。復興のシンボルとして保存され、他の建物跡とともに防災教育に活用される **3 橋野高炉跡（釜石市）** これらの石組みは現存する最古の高炉跡。周辺の地質・地形を最大限に活用して、幕末に大砲など鋳物用の鉄を製造していた。まさに人と大地をつなぐ産業遺産である

部では、リアス海岸が造り出す穏やかな湾内での養殖業が、岩石海岸のごつごつした岩礁地帯では、サッパ船や素潜りによる漁が行われており、豊かな海産資源が三陸地域の人々の暮らしや文化を育んできました。

三陸ジオパークでは、おいしい魚介類が獲れる海と共に生きる漁師の船に乗って、ジオサイトを海から眺めることができます。

琥珀（久慈市） 世界有数の埋蔵量を誇る久慈の琥珀は、縄文時代から装飾品として人々を魅了した。恐竜がいた8千500万年前の樹木からの贈り物だ

【問い合わせ先】三陸ジオパーク推進協議会 ☎0193-64-1230 info@sanriku-geo.com http://sanriku-geo.com

潜岩（くぐりいわ）　大昔の海底火山から流れ出した溶岩は、大量の枕状溶岩となった。潜岩では枕状溶岩の断面を観察することができる

新潟県佐渡市 **佐渡ジオパーク**

金とトキの島でたどる3億年の旅とひとの暮らし

佐渡ジオパーク

佐渡島は、面積855㎢、周囲約280㎞の日本海側最大の島です。1000mを越す山地は隆起量の大きさを物語っており、佐渡島が約300万年前から続く地殻変動でできた島であることを示しています。

島全体がジオパークの範囲であり、島内には約3億年前の地層が残っています。江戸幕府を支えた金銀山や、国際保護鳥トキ、そして、歴史や伝統芸能など全てがジオパークの要素であり、島や日本海の成り立ちと密接に関わっています。

島全体がジオパーク！

江戸幕府の財政を支えた佐渡金銀山は、江戸時代から平成元（1989）年までに国内最大の金銀山として78tの金と2330tの銀を産出しました。

この金鉱床は、島が海中から顔を出し始めた約300万年よりももっと昔、約3千万年前から始まる火山活動によって形成されたのです。この火山活動は、日本海の拡大にも大きな影響を及ぼしました。また、この時代に火山から流れ出た溶岩などが現在の佐渡島の土台となっています。

佐渡市と新潟県は、現在、世界文化遺産登録へ向けて活動を行っており、2010年には「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として暫定リストに記載されました。

また2011年、豊かな生態系が残り生きものを育む佐渡の農法が、国際連合食糧農業機関（FAO）に認められ、先進国では初めて佐渡と石川県能登地域がGIAHS（ジアス）（世界農業遺産）に認定されました。日本で最後まで生き残ったトキは、多様な生き物と島民が里山で共生する象徴です。

トキの餌場となる水田は島の各地に見られますが、最も広大な水田が広がるのが、島の中心部に位置する国中平野です。この平野は約2万年前まではありませんでした。大佐渡と小佐渡の隆起運動に伴い山崩れと土石流を繰り返し、徐々に2つの島をつなげました。やがて国中平野が完成し、佐渡の特徴的なS字の形ができました。

いま世界で完成した海の中で最も若い海に浮かぶ佐渡島には、最近固有種とされたサドガエルをはじめ、トビシマカンゾウなど変化に富んだ動植物、本州との交流がうかがえる遺跡、そして、全国を巡る回船がもたらした文化がいくつも根付いており、各地で興味深い行事や芸能が伝えられています。

佐渡ジオパークには10のジオサイトがあり、すべてのサイトを巡った時、長い年月によって創り上げられた日本海と佐渡島の形成史に想いを馳せることができます。

佐渡両津の薪能　佐渡島には多くの能舞台が残っており、初夏～秋にかけて薪能が行われる。佐渡は能の大成者、世阿弥が島流しされた地でもある

ジオパスタ　宿根木の海岸に分布する岩石などを表現しており、岩のりや南蛮エビなど、地元の食材をたくさん使用している。宿根木の「茶房やました」☎0259-86-1212　ランチのみ提供1200円。要予約

トキふれあいプラザ　トキの森公園には「トキ資料展示館」や「トキふれあいプラザ」があり、ふれあいプラザではケージ内にビオトープや水路、止まり木などの生息環境を再現し、飛翔、採餌、巣作りなどトキの生態を間近で観察できる。開館：8:30～17:00（入館は16:30迄）　休館：月曜（3～11月は無休）、年末年始　協力費：高校生以上400円、小中学生100円

佐渡金銀山　大昔の火山活動がもたらした金銀鉱床は、約400年に渡って採掘され、江戸幕府の財政を支えた

佐渡のトキ　2008年から試験放鳥され、現在では約100羽が島内に生息している。運が良ければ群れをなして飛ぶ姿を見ることができる

【問い合わせ先】佐渡ジオパーク推進協議会事務局　☎0259-52-2447　sado-geopark@city.sado.niigata.jp　http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/geopark/

須崎海岸　4億年前の縦じまの地層が大規模に広がっている。縦じまの岩石は火山灰が固まってできた「凝灰岩」。海岸沿いには遊歩道も整備されており、ジオガイドによる案内もある。（ガイド料2,000円 ※西予市観光協会 ☎0894-62-6437）

愛媛県西予市

四国西予ジオパーク
古大陸の軌跡と海・里・山の原風景を楽しむ

四国西予ジオパークは愛媛県の西南部に位置し、宇和海に面する海抜0m地域から四国山地につながる1400mのカルスト台地まで、東西約50km、南北約10kmの範囲に広がっています。1400mの標高差のなかには、貴重な地形や動植物が残る四国カルスト、伝統的な町並みに加えて遺跡や古墳が数多く分布している宇和盆地、リアス式海岸と段々畑で代表される北部宇和海地域、さらには地域で大切に保存されている伝統文化などが凝縮されており、どこか懐かしさを感じさせる山里や海岸の景色が市内各地に広がっています。

アジア大陸と日本列島の成り立ちを解く鍵

日本列島の大地は今から約2億5千万年前より新しいものがほとんどですが、四国西予ジオパークには、4億年以上前に存在していた、今の日本からはるか遠くに存在した大陸の一部が、何カ所かにわたって顔をのぞかせています。

とくにジオパークの西端に位置する須崎海岸は、この時代の地層としては日本ではごく稀な、美しい縦じまの地層が自慢で、遊歩道を使っての見学や、ジオクルーズで人気のスポットになっています。アジア大陸と日本列島の成り立ちを解く鍵がここにあるのです。

多様な時代の多様な大地に会いに行こう

マグマが海水で冷やされてできた溶岩や、海山の上に生育していたサンゴ礁からなる石灰岩、陸地から遠く離れた海洋底でプランクトンの殻がゆっくりと降り積もってできた「チャート」と呼ばれる固い石、陸から運ばれた泥や砂が固まってできた石、今から2億4千500万年前に地球規模で起こった生物大絶滅の時代の石灰岩、石灰分を多く含んだ湧水がバクテリアなどの作用で急速に沈殿してできる石など、多様な時代の多様な大地と出会うことができるのが、四国西予ジオパークの特徴です。

多彩なジオの恵み

西に広がる宇和海沿岸は、近くを流れる黒潮の一部が流れ込むため、霜も降りない温暖な気候ですが、出入りの激しい入り江と海岸まで迫る山、急に深くなる海といった特徴をもつ典型的な「リアス式海岸」です。深くて静かな湾を利用した養殖業が発達し、先人たちが造った見事な段々畑では、太陽の光をいっぱいに浴びたおいしいミカンの栽培が盛んです。また、東端に位置する「大野ヶ原」は、今から3億年ほど前のサンゴ礁が1400mも上昇したカルスト高原で、四国でありながら冬にはたびたび銀世界となります。積雪が

アジのあらい　この地域のアジは、典型的なリアス式海岸、餌が豊富、豊後水道の潮流という好条件と、一生をほぼ同じ漁礁で過ごすことにより、脂がのって身の締りが良く絶妙な肉質。地元ではアジの身を氷水で〆てあらいとして食べる

わらぐろと宇和米　標高約200mの肱川上流に広がる宇和盆地ではおいしい米を育てる気候と清らかな水に恵まれ、古くから米作りが盛ん。稲を刈り取って脱穀した後の藁を積み上げた「わらぐろ」は冬の風物詩

西予市立城川地質館　黒瀬川構造帯を中心に西予市の地質に関する資料や化石を展示している。映像やイラストを通じ、地球科学の基礎知識や大地の成り立ちについても楽しく学ぶことができる

1 狩浜の段々畑　石灰岩を利用した白い石積みの段々畑が広がり、おいしいみかんが栽培されている。春には菜の花、秋にはみかんが色づき、青い海、白い石灰岩とのコントラストは絶景　**2 四国カルスト 源氏ヶ駄場**　日本三大カルストのひとつで、標高1,402mの最高点からは四国西南部の山並みを一望できる。また、雨水が石灰岩の大地を侵食して形成されたドリーネと呼ぶ凹地などが見られる

卯之町の町並み　宇和島街道の宿場町として栄えた卯之町の町並みは、江戸から昭和初期の古い建物が軒を連ね、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている

１ｍを超えることも珍しくなく、そこには集落が存在し、地形や冷涼な気候を最大限に活用した酪農や花き類の栽培などが積極的に営まれています。小規模ながら小学校もしっかりと存在している天空のカルスト台地です。

市の中心地は、愛媛県最長の川である「肱川」の源流にほど近い標高２００ｍを超える「宇和盆地」にあります。古くから四国西南部の穀倉地帯として栄え、古墳や歴史的建造物も数多く、「卯之町の町並み」は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

【問い合わせ先】四国西予ジオパーク推進協議会　☎0894-62-6408　shoukoukankou@city.seiyo.ehime.jp　http://www.seiyo1400.jp/geopark/

アサギマダラ　アサギマダラは渡りをする優雅な蝶で、春に飛来し、秋には世帯交代した蝶が暖かい南へと向かう途中で休息する

大分県姫島村

おおいた姫島ジオパーク

火山が生み出した神秘の島

おおいた姫島ジオパークは、瀬戸内海の西端大分県国東半島の北へ約6㎞沖合いの周防灘に浮かぶ、東西7㎞、南北4㎞、総面積6・87㎢の島です。昭和25年に瀬戸内海国立公園に編入されています。ジオパークのエリアは、瀬戸内海の誕生により海となった部分も考慮し、東西14㎞、南北6㎞としています。

5つの火山地帯からなる姫島

姫島は火山島で、約20万年前から始まる火山活動による火山岩や火山性の地層によって構成され、中央部の中央丘陵地域、中央低地地域と達磨山火山地域、城山火山地域、矢筈岳火山地域、金火山地域、稲積火山地域の5つの火山地域からできています。姫島には、7つの単成火山の活動痕跡を見ることができ、それぞれ火山性の特徴的な地形を残しています。

島の北西部観音崎には、全国的に珍しい乳白色の黒曜石の断崖があります。黒曜石が露出している場所は国内ではきわめて少なく、観音崎に露出する黒曜石は、瀬戸内海を中心とする西日本一帯で、旧石器時代以降広く使用された石器の材料で、平成19年、「姫島の黒曜石産地」として、国指定天然記念物に指定されました。

大海地区の海岸には、火山活動等に伴う地震による振動で、上下の硬い地層に挟まれた軟弱な堆積物の中の水が液状化現象により押し出され、地層内部の構造が複雑に変化してできたと考えられる県指定天然記念物の「層内褶曲」（コンポリュートラミナ）があります。

島の北東部金地区には、冷泉が湧き出しています。この冷泉は炭酸水素塩冷鉱泉で、姫島では「拍子水」といわれ、この冷泉に温水を加えて「拍子水温泉」として活用し、村内外の多くの人に利用されています。また、この拍子水の北側には、金火山の活動による溶岩が流れた跡を見ることができます。

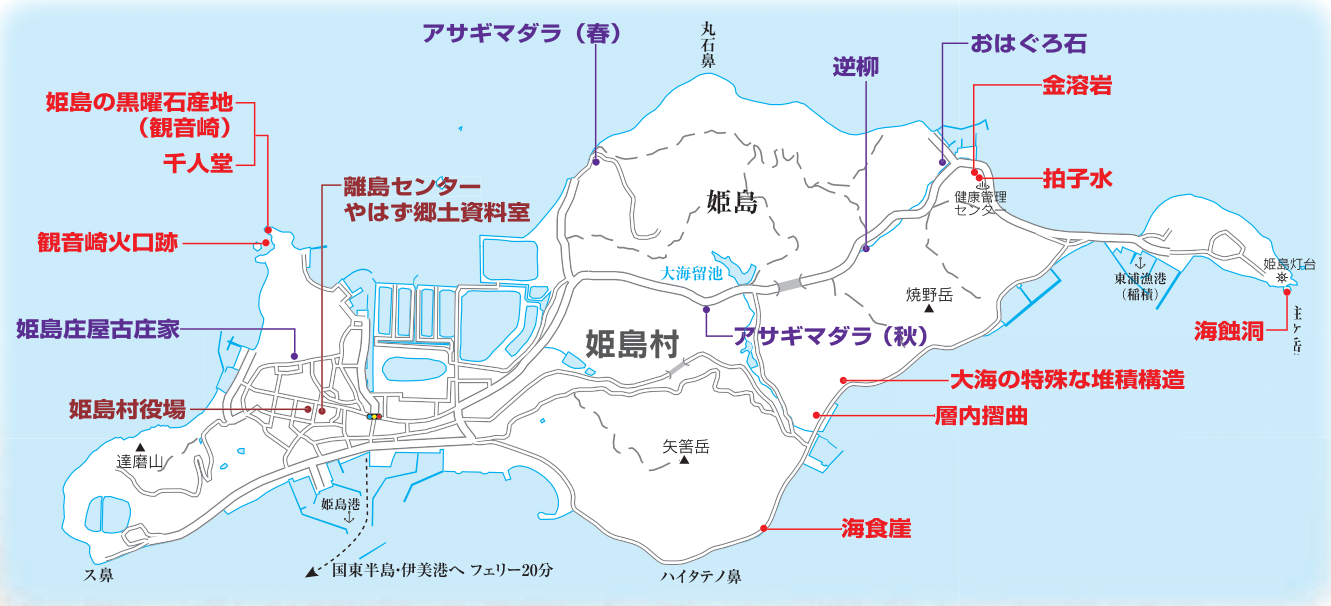
アサギマダラが飛来し、盆踊りで賑わう島

春と秋には渡り蝶の「アサギマダラ」が飛来します。春に、みつけ海岸に自生しているスナビキソウの蜜を求めて南の地から飛来し、休息した後、北の地に飛び立ちます。秋には、その世代を交代した蝶が、フジバカマの蜜を求めて北の地から飛来し、休息後には南の地へと飛び立ちます。

姫島の盆踊りは鎌倉時代の念仏踊りから発展したものといわれており、毎年8月14、15日に、キツネ踊り、アヤ踊りなどの伝統踊りや、タヌキ踊りなど多くの創作踊りが披露されます。平成25年に国選択無形民俗文化財に選択されています。

層内褶曲（コンボリュートラミナ）　火山活動に伴う揺れで、上下の硬い地層に挟まれた軟らかく、もろい部分が液状化現象で押し出され、複雑に変化したものらしい

黒曜石産地　島の北西端、観音崎には、乳白色の黒曜石の断崖が露出している。旧石器時代以降に瀬戸内地域を中心に石器の材料として使用されていた



キツネ踊り　毎年8月14、15日に行われる姫島伝統の盆踊りで、鎌倉時代の念仏踊りから発展したとされる

拍子水　姫島七不思議の一つで、炭酸水素塩冷鉱泉が自噴している。水温が24.9℃と低いため、温水を加え温泉として活用している

ジオパークの拠点施設「離島センターやはず郷土資料室」には、割れると中が藍色に輝く県指定天然記念物「藍鉄鉱」や、ナウマンゾウ、シガゾウなど年代の違う旧象の化石等の資料を展示しています。

地形や地質、黒曜石、藍鉄鉱、化石や生物多様性に富んだ自然環境など一つ一つの要素が、姫島の魅力です。

1 海蝕洞　島の東端、稲積の柱ヶ岳溶岩中に長い年月の海蝕により穿れた美しい海蝕洞。陸から行くことはできない

2 観音崎火口跡　直径70mほどの火口跡。火口周辺では乳白色の黒曜石が露出し、この一帯は国の天然記念物に指定されている

【問い合わせ先】おおいた姫島ジオパーク推進協議会　☎0978-87-2111（内線220、221）　kikakusinkou01@vill.himeshima.lg.jp　http://www.himeshima.jp/geopark/

滝迫峡　清流奥岳川に阿蘇-4溶結凝灰岩の断崖が渓谷美を描く。高さ70mを超す柱状節理が大迫力

大分県豊後大野市

おおいた豊後大野ジオパーク

プレート運動と巨大火砕流が生み出した大地

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

おおいた豊後大野ジオパークの範囲である豊後大野市は、大分県の南西部に位置し、大分県下最大の河川大野川の上・中流域を行政区域とします。市域は東西約22㎞、南北約31㎞で、総面積は603・36㎢となり、その面積は県土の約9・5%を占めます。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきた地域です。

祖母山南西部を源流とする大野川が市域西部から東部へと流れ、別府湾に注いでいます。大野川には多くの支流が発達し、各地に河岸段丘や沖積平野を形成しています。

豊富な水を利用した灌漑用水路が市内を網の目のようにめぐり、中山間地域には棚田が数多く形成され、良質の米が栽培されています。

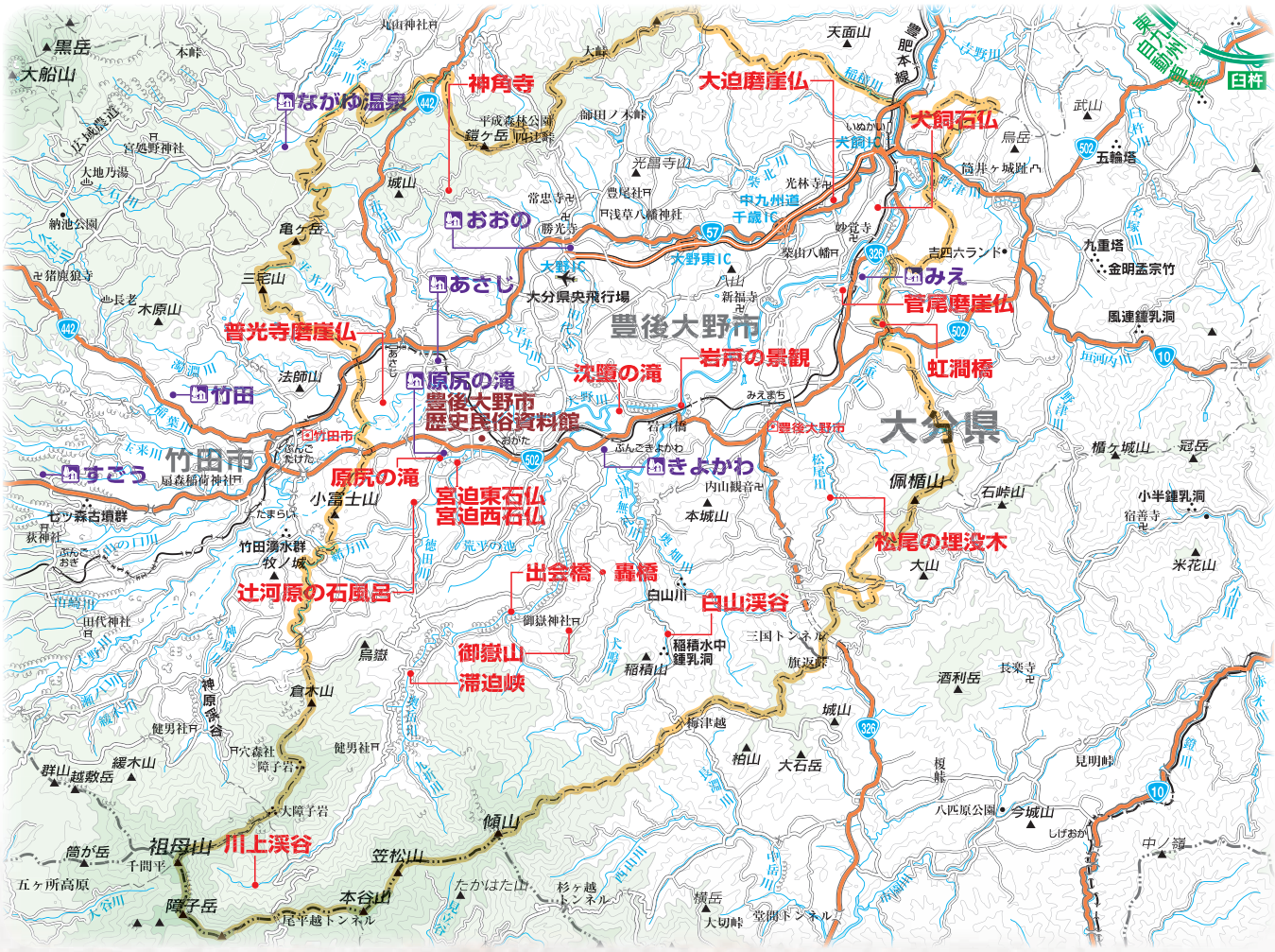
また火山性台地が各所に広がり、台地上では甘藷・里芋・ピーマンなどが栽培され、「大分の野菜畑」と称されるほど県下でも有数の畑作地帯であるとともに、日本一の生産量と品質を誇る乾ししいたけの産地でもあります。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきた地域です。

地形・地質の特徴

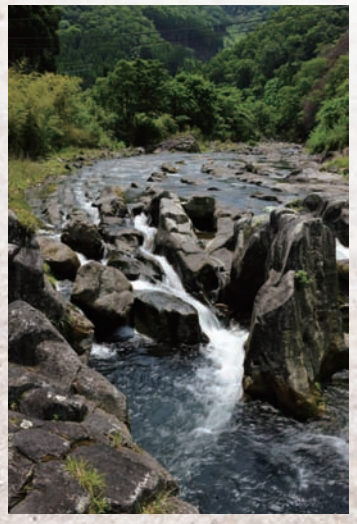
エリアの大地は、主に大野川盆地に広がる大野川層群（後期白亜紀の堆積層）と、南部に広がる秩父累帯（後期白亜紀～シルル紀の付加体）が基層となっています。新第三紀に、これらの大地を貫いたマグマや火山噴出物が、エリア南西部に雄大な祖母傾山系を形づくり、地下には火山活動に伴う多くの鉱床が形成されました。第四紀になり、阿蘇山

1 出會橋・轟橋　アーチ径が日本一位と日本二位の石橋。巨大橋が深い渓谷を渡る様子から、先人の知恵と苦労がしのばれる　**2 沈堕の滝**　阿蘇-4溶結凝灰岩の岩壁を流れ落ちる幅100m、高さ20mの滝。雪舟画『鎮田瀑図』が有名



3 普光寺磨崖仏　阿蘇-3火砕流堆積物の岩壁に彫られた磨崖仏で、高さ11.3mと県内最大級。初夏にはあたり一面に咲くアジサイが美しい　**4 菅尾磨崖仏**　阿蘇-4溶結凝灰岩に刻まれた5体の磨崖仏。良質の凝灰岩壁に彫られた仏像は、木彫仏のような精緻な造形

豊後大野市歴史民俗資料館　この地に暮らす人々の営みと、大地の関わりについて学ぶことができる資料館で、ジオパークの拠点施設



白山渓谷　石灰岩やチャート、阿蘇溶結凝灰岩の柱状節理が渓谷美を描く。水質保全活動により、清流にゲンジボタルが乱舞する

の4回にわたる巨大噴火で、火砕流が大野川盆地などの低地を覆い、市域の約1／2を覆うほどの凝灰岩の堆積層が形成されています。

テーマと見どころ

おおいた豊後大野ジオパークは、「巨大阿蘇火砕流から9万年。～大地に祈り、いかされ～」をメインテーマとしています。火砕流という火山現象のみを語るのではなく、「破局的な火山噴火、そして噴火から9万年が経過し、植生が蘇り、人類が住みつき、その大地の地形・地質を利用し、さまざまな文化を生み出した地域」としてとらえ、「自然環境とそこに生きる人々の文化を楽しみ、学ぶことができるジオパーク」を目指しています。

祖母・傾山系の雄大な自然と鉱山開発の歴史、大野川に発達する巨大滝布や凝灰岩の断崖の景観、大野川本流及び支流の水を利用した灌漑用水路網、全国一の数を誇るアーチ式石橋群、大野川中流域に発達した磨崖仏文化・仏教石塔群などが堪能できる地域です。

また、後期白亜紀の大野川層群からは、アンモナイトやイノセラムスなどの示準化石が多く産出し、秩父累帯中の石灰岩層からは多種類のサンゴ化石が見つかっており、プレート運動などの地球の壮大な営みを学ぶことができるジオパークです。

【問い合わせ先】おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会事務局　☎0974-22-1001　oita.bungo-ohno.geo@gmail.com　http://bungo-ohno.com/

ジオパークエリア遠景　活発な噴火活動を続ける活火山・桜島と、火山活動が生み出した深く豊かな海・錦江湾

鹿児島県鹿児島市

桜島・錦江湾ジオパーク

「火山の大地」を日常的に体感できる場所

桜島が噴火する前、鹿児島湾（錦江湾）には巨大な穴があいていました。この穴は姶良（あいら）カルデラと呼ばれ、約2万9千年前の巨大な噴火によってできたものです。この時の噴火で大量のマグマが流出し、南九州全土を埋め尽くし、その厚さは数十mにもなりました。こうしてできたのがシラス大地です。その後、約2万6千年前にカルデラの南部で起きた噴火で生まれたのが桜島です。

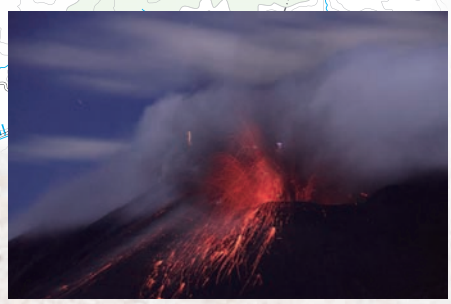
桜島と錦江湾

桜島の歴史は噴火の歴史とも言われ、これまでに大規模な噴火を17回も繰り返しています。桜島の活動は大きく2つの時期に分かれます。誕生から約5千年前までが北岳の活動、4千500年前から現在までが南岳の活動です。北岳と南岳という2つの火山が南北に連なっているため桜島は横長に見えるのです。その歴史のなかでの最大の噴火は今から約1万3千年前の大噴火です。この噴火で鹿児島市内で1m以上、県内のほぼ全域に10cm以上の火山灰が積もりました。また大正3（1914）年には、流れ出した溶岩でこれまで海峡を隔てていた大隅半島と陸続きになるなど、島の形状を変えてしまうほどの大規模な噴火が起こりました。ジオサイトでもある黒神埋没鳥居や烏島展望所等では当時の噴火のすさまじさを体感することができます。

錦江湾は東京湾とほぼ同じ大きさですが、東京湾、伊勢湾、大阪湾の三大湾に比べ、波の高さが50cmを超える割合が低く、波静かな水域の広大さは日本有数のものです。また、三大湾など他の湾では水深が最大でも100m程度なのに対し、錦江湾は200m以上あります。湾奥部には約1万6千年前の噴火で形成された直径約3kmの陥没地形があり、これは若尊（わかみこ）カルデラと呼ばれ、現在でも火山ガスが噴出し、海面では上昇してきた火山ガスの泡を見ることができ、「たぎり」と呼ばれています。このように火山活動で形成された深く豊かな海・錦江湾には約千種類の魚類が生息し、深海から浅海まで多様な海の生き物たちを育んでいます。

ジオパークの特徴

桜島・錦江湾ジオパークは、60年近くにわたり活発な噴火活動を続ける桜島の目の前に60万都市・鹿児島市があることが最大の特徴です。噴煙を上げ続ける活火山を日常としながら、日本最高レベルの火山観測体制の構築など、充実した防災対策を講じるとともに、桜島大根、桜島小みかん等の特産品や温泉など活火山の恵みを活用することで、多くの人々が生活を続け発展してきたと



黒神ビュースポット　昭和火口を望む黒神地区からは、タイミングが合えば夜の噴火を見ることができる

1 石橋記念公園　カルデラ噴火の噴出物である溶結凝灰岩を石材として架けられた石橋　**2 黒神埋没鳥居**　1914年の大正噴火によって1日に2mも埋没した鳥居。大正噴火を今に伝える災害遺産だ

溶岩ピザ　桜島の溶岩でピザ窯を組み、ピザを焼いて食べるおいしいプログラム。ピザの生地には桜島産の椿油を練り込んでいる

カヤックツアー　錦江湾や海辺のあちこちにある溶岩原、そして噴火する桜島などの自然の営みを同時に楽しめる海のカヤックツアー

天然温泉掘りツアー　体験プログラムの一つで、砂浜を掘ると温泉が湧き出てくる

という、「世界的に稀有な『活火山との共生』」が実現しています。また、エリア内には桜島と若尊カルデラという陸と海の2つの活火山が存在し、火山活動が生み出した深く豊かな錦江湾と相まって、雄大で魅力的な地形景観を有した「ジオ多様性をコンパクトに体感できる空間」であることも大きな特徴です。当地では、「火山の大地」を体感できるさまざまなジオツアーや体験プログラム等を実施しています。

【問い合わせ先】桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会　☎099-216-1313　kankopromo@city.kagoshima.lg.jp　http://www.kagoshima-yokanavi.jp/shizen/geopark/geo01.html

然別湖　火山活動による堰き止めによって造られた湖

北海道鹿追町　**とかち鹿追ジオパーク**

火山と凍（しば）れが育む命の物語

とかち鹿追（しかおい）ジオパーク

とかち鹿追ジオパークは、北海道東部に広がる十勝平野、その北西部に位置する鹿追町全域を対象地域としています。ジオパークを構成する鹿追町では、国内有数の食糧基地として知られる十勝管区の一部として、肥沃で広大な土地を使った酪農と畑作が基幹産業として営まれています。また北部は大雪山国立公園に指定されており、公園内にある東ヌプカウシヌプリなどの山々や然別湖（しかりべつこ）には自然環境や温泉を楽しみに毎年多くの観光客が訪れています。

大地の物語

物語は、約千500万年前の日高山脈の誕生から始まります。プレートの衝突によって隆起を始めた日高山脈からは、多量の土砂が山麓の十勝平野に運ばれ、その後、約100万年前の十勝三股での大規模噴火による火砕流の流入などにより大地の基礎が造られました。その基礎の上は、約30万年前に始まった火山活動によって誕生した然別火山群の火砕流が運んだ土砂に覆われ、火山群の活動によって川が堰き止められ、然別湖がつくられました。

溶岩ドームと呼ばれる小さな火山の集まりである然別火山群では、溶岩が崩れて岩のゴロゴロした斜面が広がり、やがて夏でも冷たい風を出す風穴が日本最大級の規模で造られました。さらに、風穴の地下からは約4千年前の日本最古の氷を含む永久凍土が確認されています。

風穴地帯の周辺には、風穴から出る冷たく湿った空気によってミズゴケや高山植物が生育し、それを食べるエゾナキウサギが生息するなど、とてもユニークな生態系が育まれています。

これらの大地の物語は、プロの自然ガイドが案内するツアーに参加することで、楽しみながら学ぶことができます。また、学校教育現場では、小中高の12年間にわたり故郷の自然や歴史、産業を体験し学ぶ科目「新地球学」が設定されています。そのなかで子どもたちは、自然ガイドと一緒に自然体験を重ねています。

人々の物語

鹿追の大地で人々が暮らし始めたのは、約2万年前の旧石器時代からのこと。その後、先住民族アイヌが鹿を追って暮らした大地は「クテクウシ」（鹿の追い込み柵・多くある・処）と呼ばれ、この名前は現在の町名の由来になっています。その後、北海道内でもとくに寒冷な鹿追町では、厳しい開拓時代が続きましたが、先人たちによる弛まぬ努力と寒冷地作物の開発などによって、現在では寒さを逆手にとった農業や農作物の加工などが行われています。観光面でも寒さを活用したイベント「しか

永久凍土の氷　火山の斜面につくられる特殊な永久凍土には、透明な水が含まれる

しかりべつ湖コタン　-20℃にまで冷え込む寒さを楽しむイベント（1月下旬～3月下旬）

道の駅しかおい　旅の始まりはここから。鹿追の名産品がそろっている

りべつ湖コタン」が行われています。

とかち鹿追ジオパークでは、国内ジオパークで唯一凍れ（凍結）をテーマに掲げ、凍れが作り出した地形や生態系、寒冷地に暮らす生活の知恵や産業、イベントなどを四季折々に楽しく、そして大地の恵みをおいしく体験することができるジオパークとなっています。

1

2

1 ガイドウォーク　経験豊富なガイドが豊かな鹿追の自然をガイドする　**2 風穴**　夏でも氷が残り冷たい風を出す風穴が、東ヌプカウシヌプリにある

【問い合わせ先】とかち鹿追ジオパーク推進協議会事務局　☎0156-66-4042　geopark@town.shikaoi.lg.jp　http://www.shikaoi-story.jp

これでいいのかジオパーク

本音トーク座談会

『GEOPARK magazine』の創刊にあたって、ジオパーク運営の中核で活躍している皆さんにお集まりいただき、現状の問題点を洗い出し、日本のジオパークのさらなる発展を目指すための座談会を開催しました。主なテーマは「ジオパークのコンテンツ」と「人材の育て方」についてで、3時間に及ぶ白熱した議論となりました。座談会の進行は日本ジオパークネットワークの斉藤事務局長に兼務していただきました。なお頁数の関係上「ジオパーク」を「GP」と表記してあります。

（平成25年12月下旬、東京大手町・日本ジオパークネットワーク事務局にて）

1 GPのコンテンツづくり

GPにどう取り組むか

斉藤　まず、GPとして何を紹介したいのか、またストーリーや素材の選び方が不十分ではないかと感じている。基本的な事柄を押えられていないうちにGPに認定されてしまうと、自分のGPをちゃんと語りきれない、またガイドにもしっかり伝えるべきことが伝わらない。この辺をどう調整していくかについて聞きたい。

柴田　申請書に地質や地形の個性を活かした文章になっていないものがある。すでにあった資料を寄せ集めても良い申請書にはならない。

渡辺　申請書に何を書くべきか、ということをしっかり考えてもらいたい。科学的な記載の部分はきちんと科学的に書いてほしい。

柴田　この地域を特徴づけるストーリーを組み立てて書くことが必要。

大野　地質遺産の品質保証も必要だけど、今までそれをどのように利用してきたかという実質的な部分の方が大切。ポテンシャルのない地域をGPにすると、地域も困るしGPのプランもつまずきかねない。

渡辺　地球科学のストーリーと見せるストーリーの2本立てで行くのもよい。申請書に2本立てのストーリーを記述する地域が多くなってきた。

竹之内　申請書は、単に既存の資料の引用でなく、自分たちの言葉で書くべき。

柴田　地質・地形についてはこれまでの研究が基になる。GPのスタッフやガイドさんが自分たちのGPをどのように理解しているかも審査の対象になる。それらを理解して整理された申請書になっているか、ということだ。

竹之内　その地域にとって「オリジナルは何なのか」、「何が一番大切なのか」を述べる必要がある。

渡辺　「目玉は何か」、ウチに来たら「○○を見てください」ということです。

大野　お国自慢でいい。根拠に科学的な視点が伴ってキチンと整理されていればいいけれど、それができていない。どこかのGPの申請書がヒナガタになって回っているとも聞くが、それだと、どこも似たようなものになりかねない。

渡辺　GPの「人材」が申請書を通して見えてくる。ウチに○○があるだけでなく、ウチには○○をこんなに分かりやすく説明するスタッフがいる、ということこそ申請書で自慢できることだ。実力のあるなしは学者には読めてしまう。「この申請書ダメだよねえ」、「力説するのはそこじゃないだろう」という評価になる。

柴田　準備不足で審査に突入するのはやめてほしい。専門家や他のGPの人が、2～3日をかけてGPの審査にやってくる。そのことを理解して申請書もしっかりと書いてほしい。

GPのテーマは3つある

渡辺　①「科学的（地学的）テーマ」、②現地の活動における「スローガン」、いわば現地の旗印、③お客さん向けの「キャッチコピー」の3つのテーマがある。

柴田　「キャッチコピー」はもっと観光客目線のものがいい。例えば「そうだ、京都へ行こう」みたいな。

渡辺　それはいい。けど「パワースポットに行こう」みたいなのはGPではない。

斉藤　「キャッチコピー」に対して委員会では審査の内容ではない、という感じではないか。3つの分け方、考え方を事前にちゃんと知らせてもらえば助かるのだが。

渡辺　自分たちが何を伝えたいのかよく考えること。テーマやキャッチフレーズについて、失敗したと思ったら変えていく柔軟性がほしい。

柴田　テーマとスローガンを取り違えている地域もある。スローガンならいいけれど、テーマとしてはどうか、というケース。

竹之内　GPを作ろうと思ってから申請書を出すまで短か過ぎはしないか。そのプロセスは1～2年で簡単に完成するものではないと思う。

斉藤　申請すれば通る、チェックされたところを修正すればいい、上の指令で急いで申請した、という申請のあり方はダメ。地元で議論を充分に重ねて、完成度の高い申請書を提出してほしい。

準会員は公開の場で発表せよ!!

大野　大会やセッションの場で積極的に発表すべきだ。叩かれても、恥をかいても、もまれ強くなっていくことが必要。初期に認定された地域はイバラの道を切り開いてきた。決して楽に認定されたわけではない。そんな経緯も公開セッション等で聞いて学んでほしい。

柴田　公開の場で発表を重ねると、○○地域には○○さんがいて、こんな風に取り組んでいる、ということが分かる。

渡辺　初期には申請書を書く人が私に相談してくれたりして、お互いの理解度が深まったものだが、今は申請書を見て初めて名前を知るような状態になった。

ネットワークをもっと利用すべし!!

大野　GPはネットワークなんだから、仲良くなって何でも本音を出してほしい。そこから信頼関係が生まれ、ダメなものはダメと言えるし、積極的に応援する気持ちになれる。審査員とこういうつながりをもっていれば、審査の現場でも力を発揮しやすくなるんじゃないかな。

左から竹之内、大野、渡辺、柴田、斉藤の各氏

斉藤　ポッと出て来て申請書を提出するだけでは認定は難しい。公開の場での発表を義務づけるとか、他地域の推薦を受けることも必要ではないかと考えている。認定されて4年後には全体のレベルが上った状態で再審査を受けることになる。もちろん、審査は落とすためのものではなく、より良いGPを作るためのものだ。

2 いかに人を育てるか

斉藤　次に、専門員、学芸員という学術担当者の立場から、GPの中でどのように人材を育てていくか伺いたい。

役所と現場の関係は?

渡辺　柴田さんは室戸GPでどんな風に仕事を広げていったんですか?

柴田　最初はコンサルタントに仕事を依頼していた。でも、ポスターやチラシを作る時に依頼事項が先方に伝わりづらく、だったら専門員の自分がこういう風にやっていきたいと考えて自分でやってきた。というか、やらざるを得なかった。

斉藤　GPを推進する上で、自分の専門分野の枠の中だけではやっていけない現実にぶつかる。さまざまなことに向き合わないと前に進めないことが分かってくる。

柴田　映像や看板の素材を作るとき、どうしてもキャラクターがあったほうが良いという風潮だった。・・・で、時間も無かったので結局自分でキャラクターを作ること

になった。ダン、キラ、カンザシ、ヤッコ、まがり博士。ダンは室戸の海成段丘のイメージ、まがり博士は褶曲をイメージしているんだけど、市役所に間借りしていたので「間借り博士」ではないかという話もある。（笑）

渡辺　大野さんの島原では、当初は観光課が担当部署だった訳ですけど・・・。

大野　当時の島原市の観光課はGPという仕組みを理解していなかった。当事者としての意識が希薄。必要に迫られて「GPに来た人に何をどう伝えるか」、「若い人にGPをどうやって教えるか」に、ずーっと取り組んできた。

渡辺　竹之内さんや大野さんが苦労してきたのを知っているから、僕は柴田さんにそれらのことを伝えた。だから柴田さんは自分で始めることを選んだのだと思う。

斉藤　竹之内さんや大野さんの頃は、行政の事務方には自分が新事業を考えていくというスタイルがなかったので、学術担当者に看板作りやチラシ作りが任せられ、できたものをそのまま使うという形だった。逆に、その出来栄えに口出しできなかった。

柴田　ネットワークから情報収集すると、各地のGPは何でもやっていて楽しそうだな、と思った。だから、自分ももっとやってみようと。

斉藤　色々な取り組みをすることが最初から許されていたんですか？

大野　市の職員としては最低限の仕事はやっている。GPの方はGPの仕事としてやってきた。そんな経緯で、市の職員の仕事はだんだん自分の手から離れていった。但し、声だけはかけてもらっている。自分は常にGPの現場で働いているので、新しい市の職員など最初は私が市の職員だとは思っていなかったらしい。行政の方はGPのことが分からなければ、ぜひこちらに聞いてもらいたい。

斉藤　逆に、行政側がGPにどっぷりと入り込んできたら、組織の壁があってかえって話しづらくはならないか。

柴田　室戸の場合、行政サイドは自由にやれる環境を作ってくれて、柴田どんどんやっていけ、みたいな雰囲気。私が聞いた話だと、一人だけ孤立してやっていて、他の人たちはGPがまったく分からず、興味を持っていないところがあるようだ。専門員を雇えばいいという考え方があるけれど、本来なら行政も専門家も含んだ良いチームを作り上げていくべきだ。

竹之内　GPは総合的なアプローチなので、GP推進室だけでは難しく、他の課と一緒にやっていくことが必要だ。糸魚川の場合、GP推進室、博物館、教育委員会、観光など、縄張り意識もなく当事者意識をもってやろうとしているので、全体のチームワークはいいと思う。

斉藤　糸魚川ではGP関連スタッフを拡充してきたので壁がなくなった。役所とGPの現場は、問題点があれば双方ガンガン議論して前進すべきですね。

期待できる市民のまちづくり参加

柴田　室戸ではまちづくりのセンスのある民間企業があり、iターンの若者が地元産品を加工販売している。民間人がGPと絡めて一緒にがんばっていくことはとても大切。民間がGPを突き動かすムーブメントになる。（38頁参照）

斉藤　糸魚川市長は折りに触れて訓辞をされてきたけれど、長い期間を経てようやく動き出してきた。ムーブメントを起こす仕掛け作りも大切ですね。

複数構成のGPは共通意思の構築を

斉藤　一つのGPが複数市町村で構成されているところも多いが、首長同士の意思の違いも見られるが。

大野　首長同士が積極的に関わり、時間をかけて一つの価値観を築かなくてはいけない。一市単独でも難しいのだから、大きな努力が必要になる。

自分自身のコミュニティーを持て！

柴田　専門員も多忙な実務の中でしっかり休暇をとるべきだ。GPばかりやっていても良くないので、趣味の分野など仕事以外のコミュニティーを持ちたい。

竹之内　くじけたり、いやになることもあるけど、志が近い役所の人や市民の人と話すと安心したり元気が戻る。この繰り返しだが、心身の安定が一番大切。

斉藤　皆さんは活動しながら住民がちゃんと見えている。その視点が大切だ。

渡辺真人（わたなべ まひと）
❶1962年　❷愛知県　❸O型　❹おうし座　❺産業技術総合研究所　❽GPに関わることは日々感動　❾地球の成り立ちと仕組みを知り、私たちも未来の人も幸せに暮らせるようにする活動です

竹之内耕（たけのうち こう）
❶1962年　❷新潟県　❸A型　❹うお座　❺フォッサマグナミュージアム（糸魚川市教育委員会）　❻天野祐吉『成長から成熟へ さよなら経済大国』　❼70～80年代のナツメロ　❽文化人類学の人々の細部に立ち入った深い考察　❾21世紀の地域づくりの旗印　糸魚川にとっては「裏日本」を脱却した未来への架け橋

大野希一（おおの まれかず）
❶1969年　❷埼玉県　❸O型　❹おとめ座　❺島原半島GP推進連絡協議会　❻稲垣栄洋『雑草は踏まれても諦めない』　❽東京に島原半島GPのファンができたこと　❾「たのくるしい」仕組み

色んなパークがあってもいい

渡辺　文化庁の重要文化的景観の仕組みは、地球科学的なものではなく文化的なものを中心とするけれど、GPと基本的な考え方が同じだ。GP、エコパーク（MAB）、重要文化的景観などさまざまな仕組みがあるので、自分たちの一番やっていきたいテーマをしっかり見極めることが大事だ。尾池委員長は「日本列島全体がジオパーク」とおっしゃったが、GPとしてやりやすい所もやりにくい所もある。地域の自然・文化資源を保全・活用する仕組みの中から地域に最も合ったものを選んでほしい。

斉藤　GPの特徴は、地域全体を巻き込んで多くの人が関わる仕組みでは？

渡辺　そのような仕組みはエコパークが先に提唱した。エコパークは生態系の保全と持続可能な自然と人間社会の共生が目的だ。

柴田　なんでもありというのはちょっと危険。仕組みを持たないと、ガイドラインもないし、チェック機能もない。重要文化的景観やエコパークでの経験をふまえつつ、GPのネットワークを活かしていくのが大事。

渡辺　行政が一部の住民と協力して認定を受けて、「バンザ～イ」で終わりでは意味がない。認定をどう利用するかが重要だ。

柴田　登録や認定がゴールじゃなく、周辺の景観の保護も大事だし、保護と活用を推進する母体もしっかり作らなくてはならない。母体をどう活用していくかだが、GPにはそれがある。室戸には重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建）の取り組みが既にあって、そこにGPが登場した。GPが楽しそうに住民と一緒にやっている様子が見え始めて、自分たちも変わっていかなくては、という機運が出始めている。重伝建の人たちもそこの建物だけを残すのじゃなく、人々の暮らしぶりも残さなければいけないので、周辺を含めた景観だと言っている。さらに一歩進めて地質・地形からくる特徴も考える方向に行ってほしい。

GPで、こんなことをやっていきたい

渡辺　地域の中で関係者がもっと良く話をすること。また日本ジオパークネットワークが何を目指すのかも、もっともっと話し合おう。

柴田　「蓄積する仕組み」を作ること。今は誰も振り返れない状態だ。GPは今後も変わっていく。その仕組みができてくると、事務局長会議や総会で、あそこにこんないアイデアや事例があった、と議論のネタとして引っぱり出せる。

斉藤　皆が先へ先へと走っている状態なので、整理する時間が持てないのが現状だ。その点、事務局としても反省している。全国大会や研修会でも、そんな仕組みが必要だと思う。

柴田　全国大会も連合大会も、もっと充実させるべきだ。

斉藤　連合大会は、GPの活動をしっかり発表する場として位置づけたい。

大野　自然を見る目を養いたい。目の前の人たちに空気感、臨場感などを五感に訴えるように伝えたい。世界的に見ればありえない数の人間が、ありえないほどの長い時間、日本という国に暮らしてきた。自然災害が発生する確率が高いところに人が住んできたのはなぜか。変動帯で起こる現象は世界中の人々が知っておくべきだ。そんなことを各地のGPに投げかけていきたい。

最後にひとこと

斉藤　最後に、GPを発展させるために「これだけは」ということを伺いたい。

柴田　ストーリーが大事。ジオストーリーにまつわる考え方がどう変わってきて、今後どうなっていくのか。

渡辺　最近ジオパークの活動を「大人の部活」と例えて説明している。研究者が顧問やコーチ、住民が部員、行政は後援会。コーチがやたらに威張っていたり、後援会が口を出しすぎる部活にはしたくない。部員がそれぞれの能力を最大限発揮できる環境を作るお手伝いをしたい。

竹之内　「GPは役所改革」だ。総合的なアプローチなので、役所の中の壁の取り払いが必要。

大野　GPはお花畑。だけど途中はイバラの道なので、「GPはたのくるしい（楽苦しい）場所」。

斉藤　まだまだ語りつくせないところですが、続きは次の機会に。本日は長時間、皆さん本当にありがとうございました。

柴田伊廣（しばた ただひろ）
❶1981年　❷福井県　❸O型
❹おひつじ座　❺室戸GP推進協議会　❻カトリーヌ・クレマン『テオの旅』　❼忌野清志郎、くるり、東京事変
❽室戸高校生徒のジオツアー
❾「ボクたち、地球に生きている」を伝え、ジオツアーを体験した人が、生き方や未来を変えるきっかけになる場所

斉藤精一（さいとう せいいち）
❶1965年　❷新潟県　❸AB型
❹いて座　❺糸魚川市東京事務所、JGN事務局
❽認定されたばかりの西予市民のGP熱
❾人と人をつなぐ素晴らしいツールです

出席者質問内容
❶生年
❷出身地
❸血液型
❹12星座
❺現在の所属
❻最近読んで面白かった本
❼好きな音楽
❽最近感動したこと
❾GPって何？

海から見たジオパーク

陸上から海底まで展開する日本の海と陸の多様性

公益財団法人自然保護助成基金　目代邦康

ジオパークの活動は、人々の暮らしの場であり、地形や地層の観察が容易な陸上を中心に進められています。しかし地球の約7割を占める海は、生命の誕生の場であり、さまざまな地球科学的現象が進行しているところです。そして人類は、食料や鉱産資源など多くの恩恵を海から受けています。海底や海岸には多様な地質、地形が広がり、さまざまな生物が生育しています。海にまで視野を広げてジオパークを眺めると、自然界の不思議さ、面白さをさらに感じることができるでしょう。ここでは、陸上から海底までを表現した鳥瞰図を使って、日本の海と陸との多様性を見ていきたいと思います。

大陸棚と南海トラフ

日本列島では、陸地の周りは水深200mの大陸棚と呼ばれる浅い海が広がっています。室戸ジオパークのある室戸岬の東海岸は、大陸棚が無く海が急に深くなっています。ここには野根海底谷と呼ばれる海底の谷があり、海底地形は東側の室戸舟状海盆へと連続していきます。こうした地形のため、陸上から海底までを短い距離でつなぐことができます。他の場所に比べると深い場所の水を汲み上げやすい場所になるので、室戸では海洋深層水の汲み上げの施設が造られています。海洋深層水は、化学物質による汚染が無く、無機栄養塩類が豊富で、低い水温で安定していることから、飲料水や食品、化粧品などに利用されています。

室戸岬から南の海に目を転じると、岬から約数十kmのところで、海が一段と深くなっているのが分かります。ここで海側のフィリピン海プレートが、陸側のユーラシアプレートの下に沈み込んでいます。ここの地形を見ると、東西方向に何本かのしま模様が見えます。これは沈み込みに伴って、海底の地層が大陸側に押しつけられたためにできたものです。このようにしてつくられる地層を付加体と言い、日本列島のとくに太平洋側に広く分布しています。室戸岬の先端部で見ることができるしましまの地層も付加体です。こうした付加体がつくられていく活動が長期的に続いてきたため、日本列島が存在していると言えます。

海側のプレートと陸側のプレートの境界に、南海トラフがあります。ここから陸側の地下は2つのプレートがぶつかり合うところなので、地震がよく発生します。近い将来、ここを震源として南海地震が発生すると考えられて、その時には四国の太平洋側は甚大な被害を受けることが予想されています。

日本海の海底地形

日本列島の太平洋側の海底は、大陸棚や海溝、トラフといっ

大陸棚と南海トラフ　フィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に沈み込んでいる様子が分かる

た地形が明瞭ですが、日本海はそれとは大きく異なります。隠岐島の東側に見える深い海は隠岐舟状海盆と呼ばれる場所で、その北の隠岐海脚を挟んでさらに北側には大和海盆が広がり、そこは水深が2000m以上にも及びます。さらにその北側には大和堆と呼ばれる浅いところがあり、深さが1000m以浅です。このように日本海は堆と海盆が入り組んだ複雑な形状をしています。

今から2500〜1500万年前に、日本列島は大陸から分離してその土台がつくられました。複雑な日本海の海底の形状は、その大陸から分離したときの痕跡と言えます。大陸の縁が大きく裂けて日本海が造られたため、大きなお盆のような形になっているのです。海盆と呼ばれるところでは水深3800mに達する場所があるのに対し、外の海とつながる海峡では、水深は100m程度です。このような特徴的な海底地形のため、水深300m以深のところには、水温が0〜1℃で塩分濃度も一定の、「日本海固有水」と呼ばれる海水が存在します。

この冷たい日本海固有水と、表層を流れる暖かい対馬暖流とが混ざり合うのが日本海の特徴です。複雑な地形とこの2種類の海水の存在から多様な環境がつくられ、さまざまな種類の魚介類が獲れる海になっています。

火山と流れ山

有明海から西側の雲仙岳の方向の海底地形を見ると、海底にいくつもの小さな丘状の高まりが見えます。これは流れ山と呼ばれる地形で、1792年の眉山の崩壊によるものです。その原因は火山活動とも地震活動とも言われていますが、崩壊により崩れた土砂が岩屑なだれとなり、山麓に流れ下っていき、一部は陸上に残り、大半は海に流れ込みました。大きさは直径が10m程度のものから200m程度のものまであり、数は600程度にのぼります。この岩屑なだれによる直接の被害もありますが、さらにそれが海に流れ込んだことにより、有明海対岸の熊本に津波の被害をもたらしました。津波の死者は1万5千人にのぼると言われ、この災害は「島原大変肥後迷惑」として知られています。

火山は急速に成長するため、斜面が不安定な状態になりやすく、さらに噴火や地震の衝撃を受けるので、この眉山の崩壊のように各地の火山では大きな崩壊が発生しています。火山は噴火により上方に成長し、その後山体が崩壊し、土石流が発生することなどで裾野を広げていきます。そうして大きな火山体に成長していきます。

この図では高さ方向を強調しているため、雲仙普賢岳を中心にして、その周囲に傾きのある低地が広がっていることが分かります。この山麓の傾きのある地形から、ここでは火砕流や土石流が繰り返し流れ出し、堆積してきたことが分かります。流れ山の発生は、地域の住民にとっては大きな災害ですが、そういった地形の変化があったために、島原半島の土地がつくられてきたのです。

鳥瞰図提供：北海道地図株式会社　この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した（承認番号 平25情使、第72-GISMAP31668号）

火山と流れ山　海底の小さな丘状の高まりは眉山の崩壊で発生した岩屑なだれが海に流れ込んだもの

日本海の海底地形　隠岐島の東側の隠岐舟状海盆の水深は2,000m以上ある

ジオ鉄®

大地の物語を読み解く鉄道旅行

深田研ジオ鉄普及委員会
藤田勝代

稗田山の崩壊地遠望（JR大糸線、中土〜北小谷間） JR大糸線の北小谷駅ホームから遠望できる稗田山の崩壊。日本三大崩れのひとつとされ『崩れ』（幸田文・著）にも登場する。1911（明治44）年8月8日未明、姫川の支流である浦川上流で、降雨の後に大崩壊が発生した。崩壊4日後、姫川のせき止め湖が決壊し、下流の来馬集落が流され厚い土砂で埋まった。北小谷駅付近の来馬河原の河床幅が広いのは、この時の流出土砂の堆積によるもの

鉄道を利用しながら、沿線に広がる地質地形を楽しむ気軽な旅を通して、自然科学に興味をもってもらいたい。そんな願いのもと誕生した「ジオ鉄」は、鉄道旅行を知的に楽しむ、新しい形のジオツアーとして注目を集めています。ジオと鉄道、両者の魅力を存分に味わう独特のスタイルで、2009年全国に向け公表して以来、ジオパーク活動の機運の高まりとともに、「ジオ鉄」の活動は知る人ぞ知る取組みになりました。ここでは、今ひそかにファンを増やしつつある「ジオ鉄」についてご紹介します。

ジオ鉄って？ ジオと鉄道のコラボ

つい数年前まで、「ジオ鉄」という言葉はありませんでした。「ジオ鉄」は2009年に生まれた新しい言葉です。ジオ鉄の「ジオ」は、地球や大地を表す言葉に用いられる「Geo」から、「鉄（てつ）」は、鉄道そのものの意味と鉄道ファンの愛称「テツ」にちなみ、鉄道に対する親しみと敬意を込めて、筆者らが命名しました。

きっかけは2008年の秋。「社会のための地球科学」を標榜する国際惑星地球年（IYPE）日本の事業委員会の一員となった筆者（公益財団法人深田地質研究所）と、加藤弘徳さん（株式会社荒谷建設コンサルタント）、横山俊治教授（高知大学）の3名で、地球科学のアウトリーチ企画を練ったことに端を発します。「地質技術者の目線で語る、ジオと鉄道の魅力」を伝える試みという、ちょっとマニアックなアイディアから「ジオ鉄」は生まれました。

沿線の見どころ「ジオポイント」を発掘！

国土の約7割を山地が占める我が国。縦横に張り巡らされた鉄道網と山地や河川の関係はとりわけ密接です。ジオと鉄道は切っても切れない関係にあり、ジオ鉄ではそういった鉄道を通じて「見る」「触れる」「感じる」ことのできる地質・地形遺産や、鉄道と深く関わる文化遺産、鉄道着工に至る当時のルート選定の苦難のエピソードを読み解き、沿線の見どころを「ジオポイント」として発掘しています。

ジオ鉄で「ジオポイント」として取り上げるのは、有名な観光スポットだけではありません。車窓越しに目に入ってくる何気ない風景の謎、途中下車での散策（徒歩・レンタサイクル）に適した場所、ジオと鉄道を一緒に写せる撮影場所（ジオ鉄写真）、地質や地形に関わりの深い鉄道施設、たとえば森林鉄道や鉱山鉄道、廃線跡もターゲットです。さらに安全・快適な列車運行のために進歩してきた土木や防災技術など、これまで一部の専門家やマニアしか知らなかったような事象を、ジオ鉄目線で捉え、鉄道沿線の見どころを分かりやすく解説しています。

これまでに発表したジオ鉄路線 〜ジオ鉄は四国から始まった〜

ジオ鉄は、2009年に日本地球惑星連合大会（JpGU）のジオパークのセッションでデビューしました。第1路線にはJR四国土讃線が選ばれました。土讃線（多度津〜窪川間）は、中央構造線の断層谷や、隆起を続ける四国山地とそれを削る大歩危・小歩危の渓谷美、日本最後の清流といわれる四万十川など多くの地形・地質要素を抱え、また2カ所のスイッチバックや世界初の制御振り子式気動車の導入、度重なる土砂災害の対策など、ジオ鉄の要素が満載の路線です。翌年以降、第2路線土佐くろしお鉄道阿佐線（ごめん・なはり線）、第3路線JR四国予土線。第4路線JR東日本・西日本大糸線、第5路線JR北海道富良野線も加わり、ほぼ毎年、新しいジオ鉄路線を同大会（JpGU）で発表しています。また、その活動は学会にとどまらず、各地での講演会や講座、ジオ鉄マップ制作（図1・図2）、現地ツアー、書籍執筆、メディア掲載、惑星地球フォトコンテスト（主催：日本地質学会）への協力など、数々の普及活動も行なっています。

「ジオ鉄マップ」ジオパークの魅力パワーアップ！

多くの取り組みのなかでも、ジオ鉄の魅力を存分に味わってもらおうと企画したのが「ジオ鉄マップ」（編

図1 ごめん・なはり線ジオ鉄MAP（編集：深田地質研究所、発行：ごめん・なはり線活性化協議会） 太平洋を眺望しながら秩父累帯、四万十帯の付加体地質の上を走る、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線のジオ鉄を紹介。高知県東部にある魚梁瀬森林鉄道（廃線）、阿佐東線沿線も網羅し、室戸世界ジオパークエリアのジオポイントも掲載。2011年7月の世界ジオパーク審査時に審査員をもてなした1冊。現在高知県内で無料配布中。カラー 19頁

ノロッコ号でゆくジオ鉄の旅（JR北海道富良野線、上富良野〜西中間） 真朱色のディーゼル機関車が牽引する客車の車窓からは十勝岳連峰の勇壮なパノラマと十勝岳の爆発で噴出した火砕流堆積物（溶結凝灰岩）がつくる丘陵地形を展望できる。幾度も爆発の歴史がある十勝岳だが、1926（大正15）年の大正泥流は小説『泥流地帯』（三浦綾子・著）にも描かれている

集：深田地質研究所）の制作です。ジオパークとのコラボでも注目を集めました。ジオ鉄では、鉄道路線の始点から終点までを範囲としているので、レールの延びるところおのずとジオ鉄の範囲も市町村境界を越えます。こうして創られた「ジオ鉄マップ」は、沿線をまるごとジオ鉄で堪能できるだけでなく、ジオパークのエリアを越え、ジオパークへ至るまでのアクセスの魅力を高めるガイドマップとして、好評を博しています。これまでに2種類のジオ鉄マップが発行されています（図1・図2）。

「ジオ鉄®の旅」高知新聞に連載中

また2013年4月から、高知新聞で「ジオ鉄®の旅〜列車で楽しむ四国の地質と地形」（毎月第3土曜掲載）の連載が始まりました（図3）。ジオ鉄写真をメインに据え、ジオポイントを絞ってじっくり解説する、毎月読み切りのスタイルです。四国各地の鉄道とジオを読み解く面白さを伝えながら、じわじわとファンが増えています。

ジオ鉄の楽しみ方いろいろ

列車に乗って、沿線の大地の成り立ちを思いながら車窓を眺めたり、列車の待ち時間に駅周辺の地質露頭や廃線跡を散策したり、地形図とにらめっこしながらジオ鉄写真の撮影ポイントを探したり、自然と闘い共生の道を歩んできた鉄道技術の進歩を垣間見たり。人それぞれ多様な楽しみ方があるのが「ジオ鉄」の良いところで、文理融合の世界を堪能する味わいがあります。いつも見ているあの風景、いつも乗っているあの列車が、ジオ鉄のフィルターを通して眺めると、新しい発見やひと味ちがう魅力を発揮し始めます。「ジオ鉄に行ってきました」なんて声をかけられると嬉しいものです。ジオ鉄の生みの親としては、それぞれ思い思いのスタイルでジオ鉄を楽しむ、そのヒントになる材料を提供できれば嬉しく思います。

これからのジオ鉄

現在ジオ鉄は、深田地質研究所の普及事業の一環として活動を継続中です。2010年12月、同研究所により「ジオ鉄®」（商標登録第5337886号）が取得され、社会的に認知される体制も整いました。2012年3月には念願のロゴマークも完成。2013年4月、同研究所内に「深田研ジオ鉄普及委員会」が設立され、一層活動の充実を図っています。

深田研ジオ鉄普及委員会では、現在ジオ鉄のホームページを作成中です（今春5月に新規開設予定）。ジオ鉄のことをもっと詳しく知りたい人は、ぜひ深田地質研究所WEB（http://www.fgi.or.jp/）からチェックしてみてください。

参考文献：加藤弘徳・藤田勝代・横山俊治（2009）：ジオ鉄を楽しむ-鉄道車窓からのジオツアーの提案（1.JR四国・土讃線）、総特集ジオパーク（2）地球科学がつくる持続的な地域社会、月刊地球、vol.31、No.8、pp.445-454.

参考図書：「最新・高知の地質 大地が動く物語」鈴木堯士・吉倉紳一編（南の風社） 第七章ジオ鉄®で楽しむ高知の地質（横山俊治・藤田勝代・加藤弘徳）124〜146頁

ジオ鉄®の旅

地学普及の願い込め

図3 高知新聞連載「ジオ鉄®の旅〜列車で楽しむ四国の地質と地形」 執筆は深田研ジオ鉄普及委員会のメンバーが交代で担当。連載は好評につき2015年3月（第24便）まで継続決定。毎月第3土曜掲載
2013年4月20日発行
（高知新聞社提供）

図2 JR大糸線ジオ鉄マップ（編集：深田地質研究所、発行：糸魚川市産業部都市整備課） 松本駅から糸魚川駅まで全長105.4kmに渡り、北アルプスを展望しながら姫川沿いを走るJR大糸線と糸魚川世界ジオパークの魅力をたっぷりと紹介している。カラー27頁

南九州 食文化

お国訛り ジオ自慢

男鹿の「石焼き料理」

男鹿半島の入道崎の断崖は、7千万年前の火山噴出物が固まった溶結凝灰岩でぎでいるってて分がってだが？　この岩石が波に洗われで丸っけぐなったのを地元の人がだは「金石」と呼んでいで、男鹿の名物「石焼き料理」に使わいでいるんだど。

石焼きはもどもど男鹿の漁師さんが考え出した磯料理だがら、豪快で迫力あるどー！　味噌仕立てのだし汁と魚介類や野菜の入った杉の桶に、炭火で800度ぐらいに熱ぐした金石を投入！　あっという間にグツグツ沸騰して一瞬で煮上がるがら、魚介の身は引き締まってプリプリ、しったげんめど！　男鹿に来たら「石焼き料理」を食べで、男鹿半島7千万年の大地の歴史を舌でも感じでけれ！（永井・記）

「金石」を使う名物・石焼き料理

三関の「せり」

きりたんぽに必須、三関のせり

秋田で鍋って言えば、きりたんぽが有名だども、そのきりたんぽさねば（無いと）だめな野菜が、セリ。そのセリの中でも、ブランドさ、なってらなが、ゆざわでこしぇられでら三関セリだ。三関のセリだば、真っ白ぇ根っこが長んげぐ伸びでで、根っこまでけ食るどごが、珍しなだども、このセリこしゃるなさもジオが関係してるなしゃ。

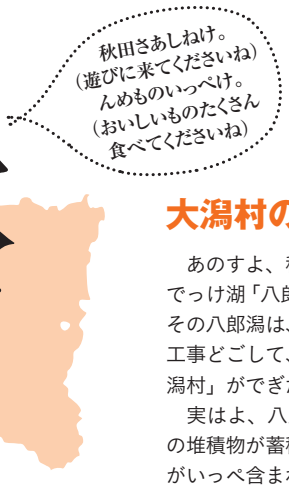
三関セリは扇状地の裾野でこしゃられでるなだども、扇状地はよー、裾野さ行ぐほど堆積物の粒が細ぐなってるし、地下水が清水さなって、湧いで出でくるなしゃ。んだがら、根っこが長んげぐ伸びだセリこしゃるなさ、びったりなんだど。まんず、一回食ってみでけれ！（畑山・記）

ゆざわの「酒」

んめぇ米っこ、えっぺ（たくさん）とれる秋田県は、「米の秋田は酒の国」って、言われるくれぇ、んめぇ酒っこが、えっぺあるどぉー。秋田のなかでも湯沢市は、酒っこ、えっぺこしぇでるどごで、盛んだじぎだば（時期だと）、市内さ酒造会社が7っち、8っちもあったど。

なして、ゆざわさ酒っこしぇる会社がこったにえっぺあるがって言えば、院内銀山があったがらで、盛んだじぎの院内銀山だば、当時の秋田市よがも人っこえっぺ住んでだって言われでで、そごで働いでだ鉱夫だぢ、仕事終わった後で、いっぺ酒っこ飲んだから、なんぼでも売れだんだど。働く人だぢ飲むなだがら、ゆざわの酒っこは、まったりとあんみゃ酒っこがよげ（多い）だなしゃ。まんず、飲んでみでけれ！　そえで、最近流行の飲み方はよー、酒っこをロックで飲む「ユザワロック」だ！（畑山・記）

湯沢の名だたる日本酒



秋田

秋田さあしねけ。
（遊びに来てくださいね）
んめものいっぺけ。
（おいしいものたくさん
食べてくださいね）

大潟村の「米」

あのすよ、秋田県さは、むがし日本で２番目にでっけ湖「八郎潟」があったって知ったったすか。その八郎潟は、食糧増産するどって、戦後に干拓工事どごして、底さ水田が創らいで、そいで「大潟村」がでぎだんだど。

実はよ、八郎潟の湖の下さは、過去1万年以上の堆積物が蓄積してで、有機物が多ぐ、ミネラルがいっぺ含まれでいだんだど。して、干拓したっけ、その湖が水田さ生まれ変わったんだど。そうゆうごどで大潟村さは、米づくりにもってこいのすこたまいい土壌が広がったんだど。さんさんど照る太陽ど、日本海からのたいした気もぢっこいい風っこが、いぐね虫の発生どご防いでけで（くれて）、健康でうめぇ米どご育てでくれでるのよ。

大潟村の「米」だば、八郎潟の成り立ちと自然の恩恵がいっぺーつまってるんだど。（薄井・記）

肥沃な土壌・大潟村の米

八森の「ハタハタ」

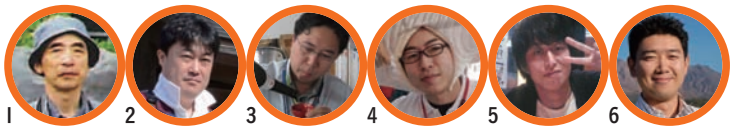
冬の風物詩・ハタハタ漁

12月にもなって小雪が舞い降りる頃になると、当地域ではこんな会話が聴かれます。

「白神の山こ、3回白ぐなったもんな。近えうぢにハダハダ来るど。」漁師たちはその作業に取りかかります。仕事をしながら、「ハダハダは、なして夜ばり来らった？」「えらい人から聞いだ話だどもしゃ、ハダハダの体っこ銀色にピカピカ光っているべ。背中だけだば黒っぽいけどや。昼間に来るど目立づべしゃ。」「ふーん、おめさがしな！」

「今年のハダハダ大きな。ほら、頭としっぽがサハチ（皿鉢）からはみ出してるべ。」「おれの親父な、晩酌やりながらこんなハダハダ66匹食ったど。おれも挑戦したども20匹しか食ねがった。おれの親父、どんた腹してたもんだべが、アハハハ。」「んだども、どして八森のハダハダ、こんたに大きぐうめえんだべか？」「その話だば聞いだごどある。ハダハダはしゃっけ（冷たい）水でねば生きられねのだど。したども、卵がら子っこハダハダになるには温け水でねばならねあったど。」「そんなどこ、ある訳ねべ！」「ところがな、それがあるんだ。二ツ森ってしゃべる（言う）岩浜が真瀬川の出口にあっぺ。あそこが、両方の水が混じり合わねであるんだど。」「へーっ！」「ところがな、この場所はハダハダが住んでいる場所から一番遠いんだど。だから元気のえーぇ大きハダハダがやって来るんだど。」「ハダハダ来たドーッ！」

「何だが、分かねども、このハダハダうめえな！」（神垣・記）



1 2 3 4 5 6

記事担当者　1 永井登志樹　2 薄井伯征（以上男鹿半島・大潟GP）　3 畑山良栄（ゆざわGP）
4 神垣恭彦（八峰白神GP）　5 窪田宗摩（霧島GP）　6 福島大輔（桜島・錦江湾GP）

秋田VS うんちく

「からいも」と「芋焼酎」と「ガネ」

南アメリカ大陸⇒東南アジア⇒中国⇒琉球⇒種子島へと伝わったとされる甘藷（かんしょ）を薩摩に初めて持ってきたたぁ前田利右衛門ちゅう方で、やせた土地（ジダ）でも育つ甘藷を薩摩に持っきて、「からいも」ち呼んで薩摩藩で育て始められたげな。

火砕流堆積物に覆われとるみなん九州で、からいもは積極的に作られ、食用や焼酎の元として広まい、形が蟹に似てることから名がついた野菜のかき揚げ「ガネ」や、今や全国でも有名な「芋焼酎」の文化がここに育まれてきもした。

からいもは、火山灰土壌や風害や乾燥にも強いので、飢餓対策としても良か食べ物で、実際、江戸時代の享保飢饉の時には、からいもがずんばいあっとこい（いっぱいある所）では、餓死者がでらんかったっちゅう記録もあり、これを受け、八代将軍徳川吉宗は関東地方にも広めようと青木昆陽に告げて、そん後、全国へと広まっていったげな。

また、今の鹿児島県伊佐市にある郡山八幡神社には、「1559年焼酎もおごってくれないけちな施主だ」っちゅう中身の落書が残っちょい、こいが焼酎に関する日本で最も古い文献ち言われちょいもんど。

1

2

3

1 芋焼酎の原料・からいも
2 形が蟹に似たさつまいものてんぷら・ガネ
3 言わずとしれた芋焼酎

「かごしま黒豚」

みなん九州の郷土料理として有名な食べ物の一つに、黒豚料理（角煮・しゃぶしゃぶ・豚カツなど）があっど。

シラス台地の影響で農業土木があまりできなかった島津の時代、やせた土地（ジダ）でも育つからいもと、それを餌にする豚肉を良く食っちょったげな。一時は藩の石高のほとんどがこん二つじゃったち言われちょっど。水はけの良かみなん九州では、保存がきく米がずんばいは作ぁならじ（たくさんは作れず）、じゃっで島津では、戦で遠出する時などは、豚を生きたまんま食いもんとして戦場に運び、兵糧としちょいもした。豚は“歩く野菜”ち呼ばれ、丁寧にされもしたげな。みなん九州で飼われちょった豚はそん後も数が増え、今では鹿児島県と宮崎県で全国の豚の飼養頭数の約4分の1を占めるまでになっちょっど。

今の鹿児島黒豚は、明治時代に薩摩に入ってきたイギリス原産のバークシャー種と土着の豚との掛け合わせによりでけたもんで、一般的には六白と呼ばれる白い部分が六カ所ありもす。黒豚は鹿児島の宝（黒いダイヤモンド）ち呼ばれ、2010年の口蹄疫が出た時は、原種の豚を屋久島や甑島に避難させたこともあるほど、こん地域じゃ大事にされちょっど。（以上窪田・記）

あまく深みのあるかごしま黒豚のしゃぶしゃぶ

みなん（南）九州は、プレートが沈んせえできた火山がいっぱいある所で、北から加久藤・小林カルデラ、霧島山、姶良カルデラ・桜島、阿多カルデラ、鬼界カルデラ…と続く西日本火山帯からも分かるように、昔から破局的な噴火を繰り返し、何べんも火砕流や火山灰に覆われた所やんさぁ。

シラス台地で知られちょるように、みなん九州は稲作には向かない火砕流堆積物や火山灰層の土地（ジダ）が主で、じゃっで、みなん九州独自の特殊な食文化が育まれてきもした。

南九州

みなん九州は
うんまか食べものが
ずんばいあっとこい
（いっぱいある所）やっど。
どうぞ、おじゃったもんせ。
（おいでくださいませ）

生でもうまいシマデコン

桜島の「桜島大根」

桜島でいっぱん有名な特産品は、やっぱぃシマデコン（桜島大根）じゃっど。ギネスブックに載っちょっ記録では、重さ31.1kg、胴回り119cmもあったたっど。

シマデコンは、軽石と土が混じった、ちぃとやせた土地（ジダ）で作られちょっ。軽石は火山噴火ででけたもんじゃっど。こまんか穴が、ずんばい（いっぱい）空いちょっで軽（ジダ）るかたっどん（軽いのだけど）、こん穴んおかげで土地（ジダ）ん中でも水ん出入りが良か。ちぃとやせた土地（ジダ）で肥料の効き目も良かし、水はけが良かでぇ水の管理が良かふぅにでけて、うんまか大根がでくったっど。

シマデコンは、普通の大根のごつ辛く無かで、生で食っても甘かし、水分も多くてうんまかど。大根サラダがお勧めじゃっ。煮崩れもしにくかで、煮物にも良か。いけな風に（どんな風に）料理してん、わっぜ（すごく）うんまかで、いろいろ試してみっくいやんせ。（福島・記）

GUIDE REPORT

ガイドの目

山陰海岸ジオパーク公認ガイド　今井ひろこ

山陰海岸GPの魅力は人とのつながり

山陰海岸ジオパークでジオガイドを始めて早や4年。6年前に嫁いできた町のことを知るのが楽しくて「元観光客」としての視座を保ちつつ、ガイド活動に生かしています。ここ1、2年は国内のジオパークで講演をする機会にも恵まれ、講演先のジオパークの魅力について、地元紙のコラムで月1回掲載しています。自分のジオパークと比較しながら各地を見ていると、それぞれの良さが分かって、旅がより楽しくなりますね。

山陰海岸ジオパークは面積が広く、京都府の京丹後市から鳥取県鳥取市まで、ジオパークを端から端まで車で行くと5時間弱かかります。そのため、ジオエリアを一緒に巡り親交を深めるガイド交流会が年3回行われています。味のあるガイドさんも多く、交流会などで知り合ったガイドさんや他のジオサイトを、自分がガイドを担当したお客様にも伝えて、次回の来訪につなげようと心がけています。

このような活動も含めて、山陰海岸ジオガイドの「紅一点」二種ガイドとして、各ジオエリアのガイドさん同士の絆を深め、ジオパークが目指す「ヒトの魅力」をパワーアップできるように、セミナーの企画やガイド向けの講座など、環境づくりを進めています。それらの活動を通じて、山陰海岸ジオパークの魅力の一つ「人のつながり」を内外に伝えていきたいと思います。

今子浦の地質と海辺の生き物のレクチャー

連絡先 NPOたじま海の学校
umigaku@gmail.com

ここからは、読者のみなさんのページです

今回は、3つのテーマに分けてご寄稿いただきました。

「ガイドの目」は、なかなか直接会って話すことができない遠く離れた地域のガイドのみなさんが、紙面を通じ出会うことで、情報を共有し、各地域の問題点に気付き、解決の糸口を見つけるきっかけになる事を願って作りました。

「VOICE」は、地元のみなさんのアイデアと地の利を活かした活動を紹介しました。

「ジオ女のつぶやき」は、お客様としてジオパークを歩くなかで気づいた事、感じた事を、率直に書いていただきました。関係者としては耳の痛いこともありますが、ジオパークにドップリ浸かっていない、新鮮なお客様目線からのご意見です。

どうぞ、今回掲載された方々にご意見、ご感想、応援メールを送って下さい！

原稿募集

【ガイドの目】
実際にガイドをしていて困ったこと・問題点・このようにして問題を解決した等の具体的な内容の原稿を募集します。

【VOICE】
事業者ばかりでなく、教育、環境保護、防災等に関わって活動している方々の生のご意見、活動から見えてきた問題点、問題解決の成功事例等具体的な内容の原稿を募集します。

【ジオ女のつぶやき】
我こそは、ジオ女・ジオ男と思われる方の原稿を募集します。
ジオパークを歩いて楽しかった事、変だな?!と思ったことなど素直なご感想をお寄せください。
原稿は、いずれも400～600字程度、あなたの個性が光るアップ写真1点又はイラストを添えて下記にお寄せください。
選考の上、次号以降に掲載します。

【原稿等送り先】
特定非営利活動法人
日本ジオパークネットワーク事務局
E-mail：jgn_office@alpha.ocn.ne.jp

伊豆大島ジオパーク推進委員会委員　**西谷香奈**

自然と共存する喜びを伝えたい

2013年10月に発生した台風26号の土砂災害では、全国の皆さんからたくさんの支援をいただき、ありがとうございました。改めてネットワークを実感するとともに、伊豆大島がジオパークになっていて良かったと思いました。

台風から3週間たって、災害後初のツアーをガイドしました。小雨の降る三原山でしたが、カルデラ内の遊歩道はとくに崩れているところもなく、安心して歩けました。霧で真っ白ななか、まるで魔法のように雲が流れ去って、外輪山の形や火口がハッキリ分かる瞬間があり、三原山が「よく来たね」と歓迎してくれているような気がしました。私が「三原山に愛されている」と思う瞬間です。

その時のお客様の言葉。「自然は常に動いている。大島はそれを感じられる島」「(感じたことを) 伝えなければいけませんから」…なんだかとても励まされました。お客様が伝え手になってくれる…ということも、新鮮でした。

圧倒的な力をもつ自然と共にどう生きていくか―私たちが悩みながら火山に向き合っていくこれからの姿勢が、同じように変化の激しい自然の中で生きる島外の人にも、なにか役に立つかもしれないと感じています。今後はガイドとして、そのことも伝えていこうと考えています。

学生たちに岩石の成り立ちを教える

連絡先
グローバルネイチャークラブHP
http://www.global-ds.com/index-3.html
毎日更新のブログ。火山、ジオパーク、ツアーなど、情報満載!
http://blog.goo.ne.jp/gscrikuguide6
gon-kana@amber.plala.or.jp

隠岐ジオパーク推進協議会外国語専門員　**テレサ・サドカウスキー**

隠岐GPの魅力を世界に発信したい

オーストラリア出身で隠岐ジオパーク推進協議会のテレサです。日本海に浮かぶ隠岐に来てはじめて「ジオパーク」という言葉を聞きましたが、自分が住んでいる、または観光している地域を深く知る、感じる、そして経験することによって、ジオパークの魅力を短期間で知ることができました。

私は、日本人、外国人、誰にとっても楽しいことがいっぱいある隠岐世界ジオパークの魅力を、世界に発信したいと考えています。ジオパークは大地、自然、人について深く知ることができる、素晴らしい場所だと思います。でも、ジオパークの知名度はまだまだ低いため、ジオパークへ行ったらどんな経験ができるのかはまだ知られていないようです。

そのためにも、ジオパークの目的、地域、活動などについて情報発信が大切ですが、それぞれのジオパークの魅力を並べるよりも、ジオパークらしい観光の仕方をもっと強調したほうが良いのではないかと思います。

世界的に重要なジオパークだから魅力があるのではなくて、全体的にジオパークというところには何があるの？誰がどのように楽しめるの？ という段階からスタートしたほうがより効果的ではないでしょうか。JGNの一員として、多くの人々にジオパークの魅力を伝えていきたいと考えています。

土木遺産の福浦トンネルを解説する

連絡先
隠岐ジオパーク推進協議会
http://www.oki-geopark.jp/
oki-geopark.s@pref.shimane.lg.jp

「島商かまぼこ倶楽部」の仲間

島原商業高校教師 商業部顧問　**安藤由香**

生徒たちと「かまポテト」商品開発をともにして

商業部の商品開発のヒントを見つけようと、島原半島ジオパークが主催する「ジオマルシェ」に早速足を運んだ。さまざまな展示品を見ているうちに、商業部の学生たちと一緒にここで商品販売をやってみたいと思った。

ジオパーク推進連絡協議会に相談を持ちかけたところ、「島原雲仙かまぼこ組合」を紹介していただいた。島原半島にはたくさんの蒲鉾店があり、かまぼこは市民にとって身近な存在である。

かまぼこを世代を超えて食べてもらえるようにお菓子風にしてみようと、部活動の生徒たちに投げかけ、「かまケーキ」、「かまチップス」、「かんぼこラスク」の3つにまとまった。これらを蒲鉾組合に提案し試作していただいたが、どれも生徒の思うような味や食感にはならず、商品化が難しいことを実感させられる。

再度企画を練り直し、チップスをフライドポテト風にすることに方向転換する。これを組合の「みゆき蒲鉾」さんに再び試作依頼をかけた。でき上がった試作品は皆が驚くほどおいしかった。ジャガイモの甘味とかまぼこの風味の相性がとても良かったのだ。

「蒲鉾組合」と「島原商業高校商業部」の共同開発ということになり、レシピを組合の15社で共有し、どのお店でも「かまポテト」を製作販売することが可能になっている。現在、「しきしま蒲鉾」さんが明太子味・カレー味を開発し、おつまみに良く合うと好評である。

「かまポテト」は、研究発表大会に向けた取り組みとして、生徒たちに考えてもらったものだ。最初は“やらされている感じ”だった生徒たちも、販売活動を重ね、お客様と接しているうちに、自分たちが開発したことへの強い自信をもつようになり、今ではさらにステップアップした商品にしていきたいと、目を輝かせている。

連絡先 andou6305@news.ed.jp

商品化し、人気の「かまポテト」

地元の商品開発に情熱をかける蜂谷さん

一般社団法人 うみ路代表　**蜂谷潤**

地域の想いを形にしていく喜び

2013年春、高知県室戸市で新しい海のビジネス「一般社団法人 うみ路」を立ち上げた若者がいる。蜂谷潤さん。岡山県出身だが、瀬戸内海を渡り高知大学農学部で「栽培漁業」を学んだ。海洋汚染のほとんどない室戸の海洋深層水で養殖の研究に没頭した。昆布と昆布を餌の一部に使ったアワビの養殖だ。

昆布やアワビの養殖生産のための拠点施設の構想もまとまり、近々完成の予定だ。生産にとどまらず、観光客に来てもらい、実態を観察してもらったり、海で遊んでもらい、室戸の食材をバーベキューで楽しんでもらいたいと考えている。魚介も野菜も肉も塩もすべて室戸の食材なので、地域の人々とも触れ合えるのだ。この施設が室戸ジオパークの魅力の一つになれば嬉しいと思っている。

こんな活動が評価され、「キャンパスベンチャーグランプリ四国大会」でグランプリを獲得し、全国大会では文部科学大臣賞を受賞した。

現在、蜂谷さんは「うみ路」で、漁師や浜のお母さんたちと一緒にメジカ（マルソウダガツオ）の海洋資源のブランド化に積極的に取り組んでいる。こうして地域の皆と一緒に活動して新たな商品を作り上げていくことが好きだと言う。地域のニーズのなかで仕事をしているので、室戸市も積極的に応援してくれた。自分たちが最後までかかわるのではなく、徐々に手を離して地元の漁師やお母さんたちが自立して働いていくのが理想の形だと思っている。こんな蜂谷さんの努力を見守っていきたい。

その後、蜂谷さんは内閣官房の「地域活性化伝道師」に登録されている。

左 マルソウダガツオを低温の油で調理した「むろっとのコンフィ」 **右** 毎年与える海藻の色を変えていくと美しい縞模様の「ヤイロトコブシ」が出来上がった。室戸産だと一目で分かる

連絡先 https://www.facebook.com/hachiya.jun
hachiya8810@yahoo.co.jp ☎090-7895-8291

荒木さんが糠樽にイワシの魚醤を注ぎ込む

白山市美川・あら与当主　荒木敏明

ふぐの子（卵巣）糠漬け

白山（2,702m）から流れ出る清流手取川の扇状地に、江戸時代に栄えた北前船が多数往来した美川港がある。美川で江戸時代から受け継がれているものが糠漬け。

あら与は創業天保元年（1830年）。ふぐの子（卵巣）の糠漬けは、糠漬けの中でも珍味中の珍味である。

美川の人たちにとっては、とくに珍しいものではなく、当たり前に食していたのだが、一般の人には毒を食べるという、考えられない食品に興味がもたれている。

ではなぜ毒が抜けるのか、生産工程から説明しよう。5月中旬から6月中旬の間、ごまふぐという種類のふぐが日本海沿岸で獲れる。そのふぐを仕入れ、その日のうちに内臓を取り出す。中に卵巣があったらすぐに塩漬けにする。その期間約1年間である程度の毒が抜ける。さらに木樽に入れ糠と糀で本漬けをする。数十年前の手取川の河原の石を重石にして発酵を待つ。その間イワシの魚醤を樽の中に注ぎ込み続け、1年半後に毒性検査をして、規定内を確認して出荷する。長い歴史の中で、今まで一度も不合格はない。

では、なぜ美川でふぐの卵巣の糠漬けが生産され始めたのか。それは北前船が安政5年（1858年）に佐渡島からふぐの卵巣を美川に荷卸しした記録が出てきて分かった。糠漬けの技術と日本人の食に対する貪欲さが合体して、食べられるようになったものと思われる。

我々糠漬け生産者が現在に至るまで生産できるのも、白山と手取川の伏流水のおかげ、言わばジオの恵みによるものである。地下水がなかったら糠漬け業の発展もなかったと思われる。

フグの卵巣の糠漬け樽。重石は手取川の河原の石

連絡先　http://www.arayo.co.jp
inform@arayo.co.jp　☎076-278-3370

中高年の「まちづくりサポーターズ」のメンバーはとにかく熱心だ。雨飾温泉で

まちづくりサポーターズ（糸魚川市）

われらジオパーク応援団

糸魚川市では平成17年5月に「まちづくりサポーターズ」が結成された。この発端は、糸魚川信用組合のまちづくり推進室が公募した「新市まちづくり論文」に応募した有志が、自分たちでまち起こしをやっていこう、とスタートした市民パワーの集合体だ。

糸魚川市が世界ジオパークを目指してからは、糸魚川ジオパーク協議会と協力して、市民を対象にしたジオツアー学習会を始めた。すでに30回を超え、現在も積極的に開催中だ。特徴は、埋もれている地域のお宝の掘り起こしを積極的に広めてきたこと。たとえば、糸魚川ジオパークの特徴である東西文化の接点をテーマに副読本『境界のまち糸魚川』を作成し、他のジオパークにない特色を取り上げた。糸魚川特有の伝統文化や食文化のユニークな実態を見せたところ、その面白さが参加者の共感を呼び、息の長い活動につながっている。

ジオパークを支える住民にお宝を知ってもらおうと『糸魚川を歩こう～ふるさとめぐり』も作成して、市を訪れる観光客のおもてなしにつながるよう努めている。

これからも糸魚川ジオパークの応援団として、多方面と協力し合いながらジオパークの推進とともに、ジオパークへの誘客にも積極的に寄与していきたい。

今井ジオサイト（不動滝）での講習会

連絡先　machidukuri@fsinet.or.jp

新米ジオ女のつぶやき

文・イラスト＝藤原かこ

伊豆半島ジオパーク「河津・七滝ジオサイト」

「道がつづら折りになって いよいよ天城峠が近づいたと思うころ雨足が杉の密林を白く染めながら すさまじい早さで麓から わたしを追って来た。『伊豆の踊子（川端康成）』」

この「伊豆の踊子」の舞台となった河津町の観光名所、河津七滝を訪れて「伊豆の踊子」で描かれている書生と踊り子のみずみずしい青春の情景に思いを・・・・えっ？　でなく、・・・「石」（・・?

『河津七滝は、溶岩がつくる滝と渓谷の景観である。七滝のうち「えび滝」を除く6つの滝と、その上流の猿田淵の岩盤は、溶岩が冷え固まる時の収縮でできた美しい柱状節理が刻まれている。この溶岩は、約2万5000年前に伊豆東部火山群の登り尾南火山から流れ出たものです。（伊豆半島ジオパークHP）』（._.）ふーん。

「ジオパーク」を知って、「これが『柱状節理』ねえ」と思いながら河津七滝を歩いたのは初めて。この自然の造形美は想像以上です。でも、私のような者がこのジオサイトの美しさにたどり着くのは案外と遠い道のり。だって、天城峠で川端康成の碑を訪れ、踊子歩道をウオーキング、温泉に入ってのんびり～、それで十分満足。なかなか大地のロマンまでたどりつけないんですよね～。

伊豆に行くたいていの人は「柱状節理」より、ダイビング、ゴルフ、おいしいお魚食べて、温泉で癒される～という感じでしょう？ いつもの休日に伊豆・河津七滝へ足を運んでみたら、ジオパークっていうのがあるのね、へえ、この六角形の石の柱が整然と並んでいるような川岸（「柱状節理」）ってきれい、と「自然の造形美」に感動する、それなら、伊豆にはほかにどんなジオサイトがあるかな～、日本にはどんなジオパークがあるかなあ、と自然と興味が広がるのに。何回行っても気が付くきっかけってなかなかないもんです、ちょっと残念（>_<）

以前、河津七滝のところで撮った「滝」の写真に、大正7年、川端康成がたどった旧下田街道、その当時と同じ美しい「柱状節理」、写っているかもしれません。。。2万5000年前からあるものは、まるで初めからそこあるようにも思えるけど、それは確かに大地がダイナミックに躍動した証しなのです。そっかあ、伊豆半島は南からやってきたのねえ、、、と私は温泉につかる。。。。

箱根ジオパーク「真鶴エリア」

「何より、真鶴は静かで魚がおいしくて、海もきれいで、自然があっていいところですよ、途中、喉が乾いたら食べてね、真鶴はみかんもおいしいんですよ」とJR真鶴駅前観光案内所で、観光マップ「真鶴さんぽ」と一緒にみかんまでいただきました～。（^^♪

この「真鶴さんぽ」はお散歩するには便利でわかりやすくて使いやすそう。見所のほとんどはジオサイトでもあるし、これ使って自分でジオサイトを書き込んで、マイ・ジオマップ作っちゃいました。

歩きながらウェブサイトを見るとか、難しいサイトの解説を読むのは大変だし、たとえば、レストラン、トイレ、ジオサイトではない見所、地元の一押し！も知りたいし。自分だけのジオマップづくり、案外、たのしい☆φ(..) メモメモ

「ジオパークのこと何も知らなくて」と観光案内所の方はおっしゃっていましたが、なんだか地元愛が伝わってきてふわっとあたたかな心持ち。こういう方にジオガイドしていただいたら楽しそう。美しい自然の中でおいしいものを食べ、そして、大地を感じる、楽しみ方がいろいろあっていいのがジオパークだと思っていたんだけど。。。。予約が必要なジオガイドさんが頼めないときもわかるようにジオサイトの説明看板があるんじゃなかったのかな～。（・・?

「わが立てる真鶴崎が二つにす相模の海と伊豆のしら波」（与謝野晶子）

真鶴エリアのジオサイトの拠点、「ケープ真鶴」の前からは、この歌のとおり雄大な景色が広がります。そのケープ真鶴の入口に箱根ジオパークの看板が立てられていました。でも、ほかにはジオサイトの看板は見つけられなかった。。。

「お林散歩道」は山の中といった感じで、岬の先端にいるということを忘れてしまいそう。この林が豊かな海を育て、多様な生物の生息をささえているのだそうで、それで真鶴はお魚がおいしいのですね。駅前観光案内所の方に教えていただいたお寿司屋さんでのランチ、お手頃価格でとってもおいしかった（^_-）-☆。真鶴半島観光遊覧船（所要30分）にも乗り、美しい三ツ石海岸（ジオサイト）の夕景にしばしみとれて、あっという間の遊覧船の旅。ここでもジオパークの説明はまったくありません。

こんなに楽しんでも、これってジオパーク的には残念ってことなのかな？

かこブログ➡http://blog.goo.ne.jp

2013

日本ジオパークネットワークの活動から

伊豆大島へ災害義援金贈呈

2013年10月16日、台風26号の豪雨により、伊豆大島は土石流による甚大な被害を被りました。奇しくもその日は隠岐で第4回日本ジオパーク全国大会が開催されていた時でした。

11月13日、日本ジオパークネットワークの米田 徹理事長が大島町役場を訪れ、各地から寄せられた善意の義援金を川村理史町長に手渡しました。早期の復興を心よりお祈りします。

川村町長（左）に義援金を手渡す米田JGN理事長

家族連れやカップルも多く、にぎやかな会場風景

ジオパークワンダーランド展

2013年11月29日～ 2014年2月27日の期間、「ジオパークワンダーランド展」を地球環境パートナーシッププラザ（GEOC・東京都渋谷区神宮前）で開催。この企画展はジオパークを広く一般に知ってもらうことを主旨とし、週末には地域の物産展や体験イベントも併行して行いました。

来場者からいただいたジオパークに関するアンケート結果を、グラフにしてご報告いたします。

「ジオパークワンダーランド展」来場者アンケート集計結果

【集計期間】 2013年11月29日～12月27日回収分
【来場者数】 4,285名
【アンケート回収数】 341名

反省POINT

【着ぐるみ】
「エアー式」か「従来式」で参加率が大きく分かれました。従来式は圧縮できず、送料が高いために断念した地域が多数あり、制作費の問題もあって「何のための着ぐるみか?」を原点から考えて製作する必要があります。

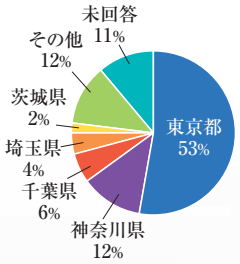
【のぼり】
大きさ、左右の向きがバラバラで、一斉に立てたときの統一感がなく、共通ルールを作る必要がありそうです。

【バッジ、シール等】
キャラクターを配したものは人気があり、文字だけなど単調なデザインは受け取ってもらえないので、まずは手に取ってもらうことを念頭にデザインする必要があります。

【体験イベント】
石の標本作り（島原半島GP）や、ヒスイ探し（糸魚川GP）など、体験イベントを行った地域は毎回定員いっぱいになりました。実際に手を動かして体験できるイベントの人気が根強いことを証明しました。

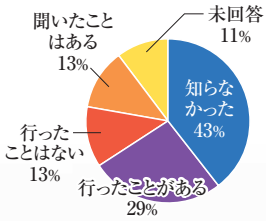
【物産展】
商品のクオリティーが高く、その地域でしか購入できないもの（農産物・100%ジュース・天然塩など）は、多少値段が高くても売れる傾向がありました。

Q1. どこから来場?



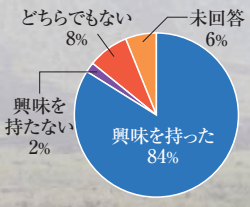
都内開催のため、1都3県で75%を占めた

Q2.「ジオパーク」を知っている? 行ったことがある?



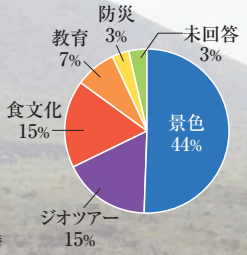
知らなかったが一番多く43%、行ったことはない、聞いたことはあるを合わせると、69%もの人が「ジオパークには行ったことがない」ことになる

Q3. 企画展を通じジオパークに興味を持ったか?



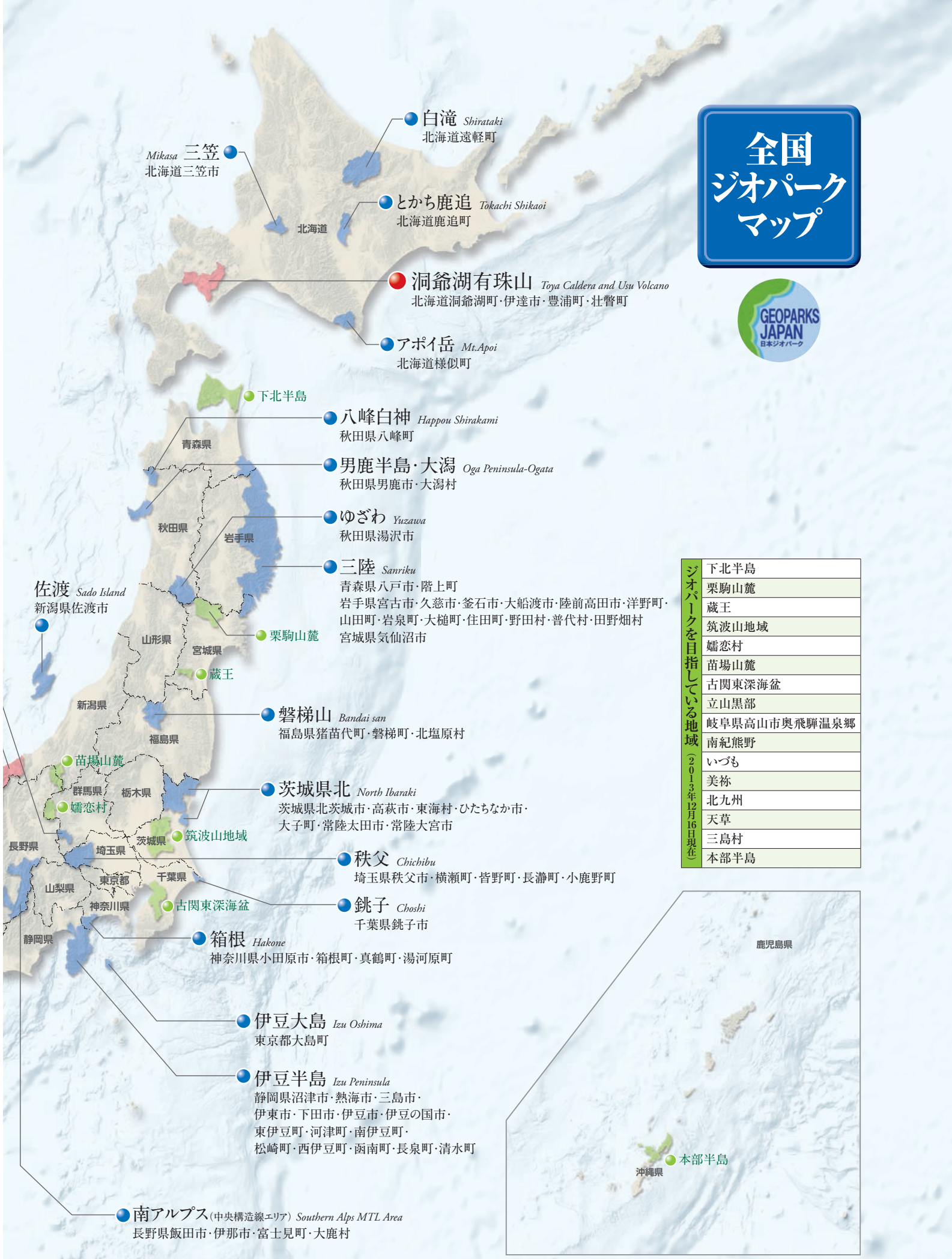
興味を持った人が84%を占めたが、持たなかった・どちらでもないと答えた人の中には、「難しそう」「面白くない」との回答もあった

Q4. ジオパークのどこに興味を持った?



景色44%を筆頭に、ジオツアー、食文化が各15%と続く

全国ジオパークマップ

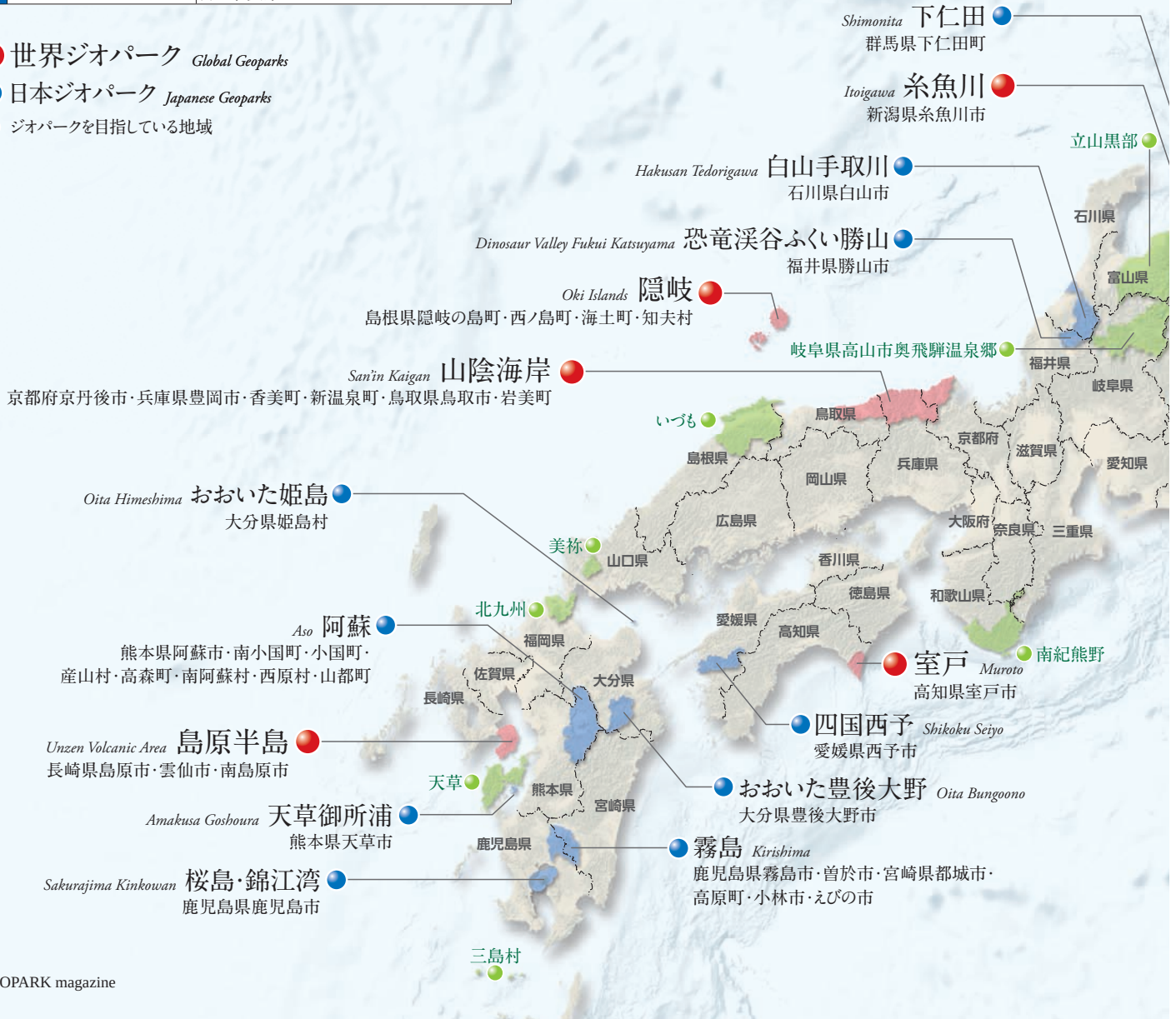


ジオパークを目指している地域（2013年12月16日現在）
下北半島
栗駒山麓
蔵王
筑波山地域
嬬恋村
苗場山麓
古関東深海盆
立山黒部
岐阜県高山市奥飛騨温泉郷
南紀熊野
いづも
美祢
北九州
天草
三島村
本部半島

ベース地図＝北海道地図提供

世界ジオパーク	洞爺湖有珠山ジオパーク	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会 洞爺湖町役場　0142-74-3015
世界ジオパーク	糸魚川ジオパーク	糸魚川ジオパーク協議会 糸魚川市役所　025-552-1511
世界ジオパーク	隠岐ジオパーク	隠岐ジオパーク推進協議会 島根県隠岐支庁県民局　08512-2-9636
世界ジオパーク	山陰海岸ジオパーク	山陰海岸ジオパーク推進協議会 兵庫県豊岡総合庁舎　0796-26-3783
世界ジオパーク	室戸ジオパーク	室戸ジオパーク推進協議会 室戸市役所　0887-22-5161
世界ジオパーク	島原半島ジオパーク	島原半島ジオパーク推進連絡協議会 雲仙岳災害記念館　0957-65-5540
日本ジオパーク	白滝ジオパーク	遠軽町・白滝ジオパーク推進協議会 遠軽町役場白滝総合支所　0158-48-2213
日本ジオパーク	とかち鹿追ジオパーク	とかち鹿追ジオパーク推進協議会 鹿追町役場　0156-66-2311
日本ジオパーク	三笠ジオパーク	三笠ジオパーク推進協議会 三笠市役所　01267-2-3182
日本ジオパーク	アポイ岳ジオパーク	様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会 様似町役場　0146-36-2120
日本ジオパーク	三陸ジオパーク	三陸ジオパーク推進協議会 岩手県庁宮古地区合同庁舎　019-629-5194
日本ジオパーク	八峰白神ジオパーク	八峰白神ジオパーク推進協議会 旧岩館小学校　0185-78-2427
日本ジオパーク	男鹿半島・大潟ジオパーク	男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会 男鹿市役所　0185-23-2111
日本ジオパーク	ゆざわジオパーク	湯沢市ジオパーク推進協議会 湯沢市役所　0183-73-2111
日本ジオパーク	佐渡ジオパーク	佐渡ジオパーク推進協議会 両津郷土博物館　0259-23-2101
日本ジオパーク	磐梯山ジオパーク	磐梯山ジオパーク協議会 裏磐梯合同庁舎　0241-32-2511
日本ジオパーク	白山手取川ジオパーク	白山手取川ジオパーク推進協議会 白山市役所　076-274-9564

日本ジオパーク	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 勝山市役所　0779-88-1115
日本ジオパーク	茨城県北ジオパーク	茨城県北ジオパーク推進協議会 茨城大学　029-228-8825
日本ジオパーク	下仁田ジオパーク	ジオパーク下仁田協議会 下仁田町自然史館　0274-70-3070
日本ジオパーク	秩父ジオパーク	秩父まるごとジオパーク推進協議会 秩父観光情報館　0494-25-5209
日本ジオパーク	南アルプスジオパーク（中央構造線エリア）	南アルプス（中央構造線エリア）ジオパーク協議会 伊那市創造館　0265-72-6220
日本ジオパーク	銚子ジオパーク	銚子ジオパーク推進協議会 銚子市役所　0479-24-8794
日本ジオパーク	箱根ジオパーク	箱根ジオパーク推進協議会 箱根町役場　0460-85-7111
日本ジオパーク	伊豆半島ジオパーク	伊豆半島ジオパーク推進協議会 伊東市役所観光課　0557-32-1784
日本ジオパーク	伊豆大島ジオパーク	伊豆大島ジオパーク推進委員会 大島町役場　04992-2-1444
日本ジオパーク	四国西予ジオパーク	四国西予ジオパーク推進協議会 西予市役所　0894-62-1111
日本ジオパーク	おおいた姫島ジオパーク	おおいた姫島ジオパーク推進協議会 姫島村役場　0978-87-2111
日本ジオパーク	おおいた豊後大野ジオパーク	おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 豊後大野市役所　0974-22-1001
日本ジオパーク	阿蘇ジオパーク	阿蘇ジオパーク推進協議会 阿蘇火山博物館　0967-34-2089
日本ジオパーク	天草御所浦ジオパーク	天草御所浦ジオパーク推進協議会 天草市役所別館　0969-23-1111
日本ジオパーク	霧島ジオパーク	霧島ジオパーク推進連絡協議会 霧島市役所　0995-45-5111
日本ジオパーク	桜島・錦江湾ジオパーク	桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 鹿児島市役所　099-216-1344



北海道地図株式会社代表取締役社長秋山一司より
日本ジオパークネットワーク理事長米田徹様への
目録の授与式！！

日本地球惑星科学連合2014年大会

ジオパークワンダーランド展

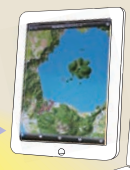
各ジオパークによる特産品等の
販売も行なわれました！！

地図データベースより様々な媒体への展開

すべてのコンテンツを
統一したイメージで作成可能

多言語版データベース

スマートフォン・タブレット型端末用アプリ



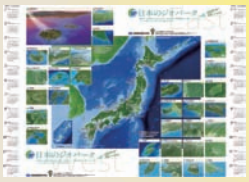
JGN公認 ジオパークぶらり
(GPSを利用した絵地図&現在地表示アプリ)

ホームページ

教育教材ペーパークラフト

アポイ岳ジオパーク

ジオパークカレンダー



2014年JGNカレンダー

観光パンフレット

ゆざわ
ジオパーク

看板・デジタルサイネージ

施設、展示会場での企画・展示

ジオパークワンダーランド展
(地球環境パートナーシッププラザGEOC)

ジオアート(鳥瞰図ポスター)

隠岐ジオパーク

応援ポスター

おおいた姫島ジオパーク

3D模型

銚子ジオパーク

ノベルティグッズ

クリアファイル、ジグソーパズル、バンダナ、巾着袋等

北海道地図株式会社は日本のジオパークを　応援しています！！

ジオパーク協賛企業
北海道地図株式会社 ジオパーク推進室 http://www.hcc.co.jp/ e-mail : info@hcc.co.jp
〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目6番1号 平河町ビル5F TEL.03-5216-4833 FAX.03-5216-4830

北海道地図株式会社と全国ジオパークの関わり

北海道地図株式会社
ジオパーク推進室キャラクター
“ジオっぺ”

当社は独立行政法人産業技術総合研究所の地質図作成や、国土地理院の地形図制作等の業務に長年関わっています。
その実績からジオパークに関わることになり、現在では特定非営利活動法人日本ジオパークネットワークの協賛企業として、
多くのジオパーク関係者様と一緒に普及・支援活動を行っています。
ジオパークに特化した地図データベースの作製、そのデータベースから様々な媒体への展開、
各地シンポジウムでの展示物の企画・製作、また全国研修会での講師役を務めるなど、幅広い活動を行っています。

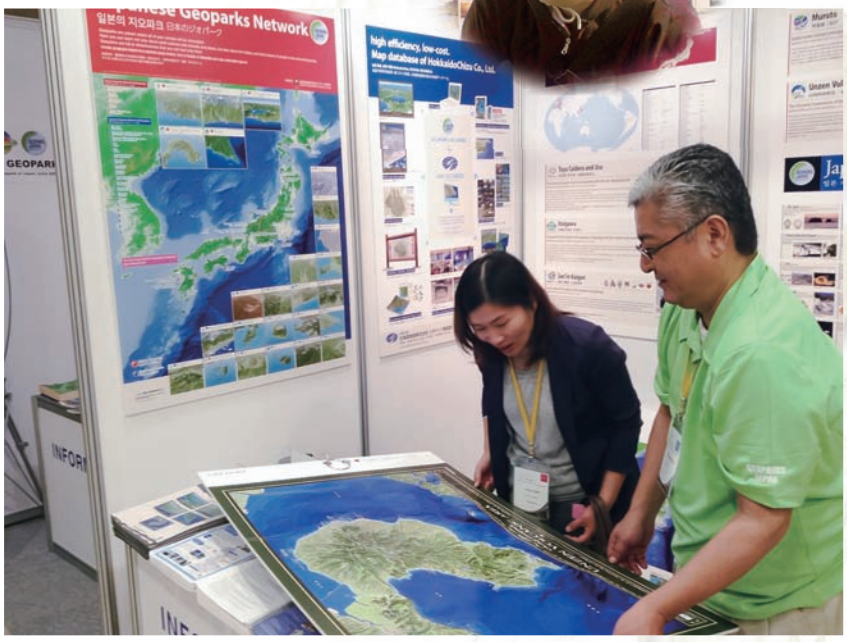
北海道地図株式会社は独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターで発行の地質図作製等でもお世話になっています。

山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」

ジオパークのペーパークラフトや
ジグソーパズルに熱中する子供たち！！

第4回日本ジオパークネットワーク全国大会（日本ジオパーク隠岐大会）

ペーパークラフトで作った
笠が海外の方にも大受け！！



第3回アジア太平洋ジオパーク大会（韓国・済洲島大会）

第2回JGN全国研修会
in磐梯山

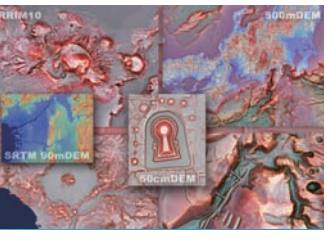
第1回ジオパーク関東地区大会
（茨城大会）

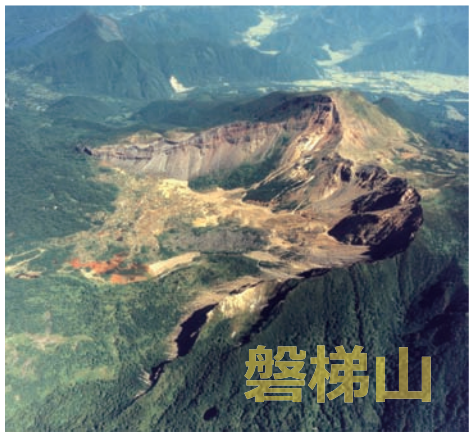
2013年度、北海道地図株式会社が参加及びお手伝いをさせて頂いたジオパークイベント一覧

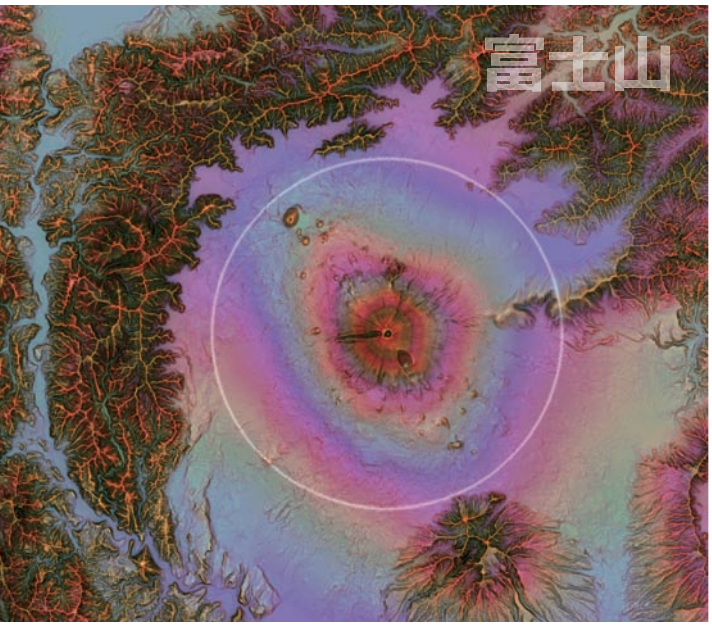
2月4日	ゆざわジオパーク日本ジオパーク認定記念フォーラム
2月13日～16日	第2回JGN全国研修会in磐梯山
5月19日～24日	日本地球惑星科学連合2013年度連合大会
7月25日～26日	阿蘇カルデラ国際シンポジウム2013
9月5日～6日	第2回東北ジオパークフォーラムin磐梯山
9月8日～13日	第3回アジア太平洋ジオパーク大会（韓国・済洲島大会）
9月12日～13日	関東ジオパークフェアin秩父
10月11日～13日	ちずサミット
10月13日～17日	第4回日本ジオパーク全国大会（隠岐大会）
10月26日～27日	国際学術会議「城崎会議」
11月3日～4日	第1回ジオパーク関東地区大会（茨城大会）
11月19日～27日	環境地図作品展
11月28日～2014年2月27日	ジオパークワンダーランド展

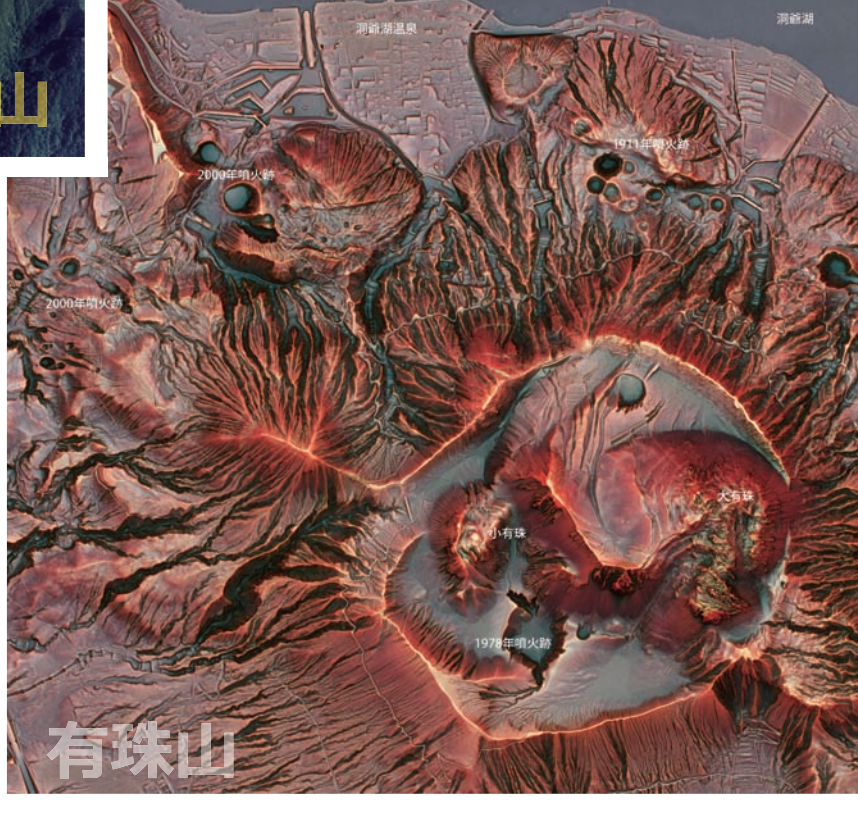
60th

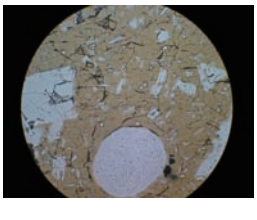
おかげさまで60周年　アジア航測は日本のジオのすべてを応援します











215 -0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺 1-2-2 新百合 21 ビル 3F
Mail：service@ajiko.co.jp
URL：http://www.ajiko.co.jp/
アジア航測株式会社

郵便はがき

切手を
貼って
ください

1 0 1 - 0 0 4 7

東京都千代田区内神田1-5-1
トライエム大手町ビル7階
日本ジオパークネットワーク事務局 行

キリトリ線

ご住所（〒　　-　　）

お名前（ふりがな）

Tel

お客様の個人情報は、本誌以外またプレゼントの発送以外には使用いたしません。

キリトリ線

各ジオパークからの

素敵なプレゼント

❶ 白滝ジオパーク	白滝の大地の恵み缶詰セット
❷ とかち鹿追ジオパーク	鹿追焼 花瓶
❸ 三笠ジオパーク	山崎ワイン
❹ アポイ岳ジオパーク	海の幸セット
❺ 三陸ジオパーク	琥珀ボールペン2本セット（ブラック・ピンク）
❻ 八峰白神ジオパーク	八峰白神の塩&もろみセット
❼ 男鹿半島・大潟ジオパーク	男鹿梨（幸水）&あきたこまち有機米5kg
❽ ゆざわジオパーク	稲庭うどん&湯沢のお酒セット
❾ 佐渡ジオパーク	朱鷺認証米5kg
❿ 磐梯山ジオパーク	磐梯山の宝詰合せ
⓫ 糸魚川ジオパーク	地酒詰合せセット
⓬ 白山手取川ジオパーク	白山まるごとセット
⓭ 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク	オリジナルトートバック（5名様）
⓮ 茨城県北ジオパーク	五浦六角堂再建記念扇子
⓯ 下仁田ジオパーク	下仁田ねぎ（箱入り）
⓰ 秩父ジオパーク	秩父カエデ糖のお菓子ほか
⓱ 南アルプスジオパーク（中央構造線エリア）	南アルプス林道バス優待券
⓲ 銚子ジオパーク	魚干物セット
⓳ 箱根ジオパーク	箱根温泉宿泊補助券（2万円相当）
⓴ 伊豆半島ジオパーク	ジオガシコンプリートBOX
㉑ 隠岐ジオパーク	隠岐の季節海産物詰合せ（5,000円相当）
㉒ 山陰海岸ジオパーク	ジオ（塩）ラーメン（3箱）
㉓ 四国西予ジオパーク	愛・彩・華ジュース詰合せ
㉔ 室戸ジオパーク	室戸海洋深層水商品セット
㉕ おおいた姫島ジオパーク	姫島車えび（真空パック）
㉖ おおいた豊後大野ジオパーク	特産品詰合せ（5,000円相当）
㉗ 阿蘇ジオパーク	阿蘇リモナイト製品セット
㉘ 島原半島ジオパーク	ジオスイーツ詰合せ
㉙ 天草御所浦ジオパーク	ちりめんじゃこ・いりこセット
㉚ 霧島ジオパーク	環霧島地域の焼酎（2本程度）
㉛ 桜島・錦江湾ジオパーク	溶岩万能グリル

PRESENT

❶白滝の大地の恵み缶詰セット

❷鹿追焼 花瓶

❸山崎ワイン

❹海の幸セット

❺琥珀ボールペン2本セット（ブラック・ピンク）

❻八峰白神の塩&もろみセット

❼男鹿梨（幸水）&あきたこまち有機米5kg

❽稲庭うどん&湯沢のお酒セット

❾朱鷺認証米5kg

❿磐梯山の宝詰合せ

⓫地酒詰合せセット

⓬白山まるごとセット

⓭オリジナルトートバック（5名様）

⓮五浦六角堂再建記念扇子

⓯下仁田ねぎ（箱入り）

⓰秩父カエデ糖のお菓子ほか

⓱南アルプス林道バス優待券

⓲魚干物セット

⓳箱根温泉宿泊補助券（2万円相当）

⓴ジオガシコンプリートBOX

編集後記

2013年夏、むせ返るように暑い日に機関誌作成に着手し、今やっとお手もとにお届けする運びとなりました。日本ジオパークネットワーク設立以来、独自の出版物ははじめてのことであったため、多くの時間を要してしまいました。

突然の寄稿依頼にも快く応じてくださった尾池和夫様をはじめ、多くの執筆者の皆様のご協力により、「GEOPARK magazine」は創刊となりました。心より感謝申し上げますとともに、本誌がジオパークに関わる皆様を繋ぐきっかけになればと祈念しています。

さて、ほっとしたのも束の間、いよいよ第2号の準備が始まります。多くの皆様からの叱咤激励をいただきより良いものを目指します。当ネットワークへの要望なども含め、お気づきの点などありましたら何なりとお知らせください。

本誌に関するご感想、発行元へのご意見・ご希望等をお寄せください。

特定非営利活動法人
日本ジオパークネットワーク事務局
〒101-0047
東京都千代田区内神田1-5-1
トライエム大手町ビル7階
☎03-3219-2990
【URL】http://www.geopark.jp/
【E-mail】jgn_office@alpha.ocn.ne.jp

【表紙写真】
伊豆大島／三原山外輪山の登山口から内輪山を望む

GEOPARK magazine 創刊第1号

平成26年3月31日発行

発行　特定非営利活動法人
日本ジオパークネットワーク
©日本ジオパークネットワーク
本誌の無断転載を禁じます。
編集　S.K.プロ　佐藤滉一
デザイン　Rico Graphic　原理子

この本の10～25頁で使用した地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（空間データ基盤）、20万分の1地勢図を使用した。
（平24情使、第36-3013号）（平24情使、第38-3013号）

キリトリ線

希望商品番号 □ 番

抽選はご希望商品ごとに行います。応募のなかった商品は再抽選するため、ご希望商品とは異なる商品が届く場合もあります。商品によっては発送時期が異なります。詳細は、各地より当選者にお知らせします。

おもしろかった記事

記事名

理 由

つまらなかった記事

記事名

理 由

ご感想をお聞かせください

感 想

キリトリ線

PRESENT

㉑隠岐の季節海産物詰合せ（5,000円相当）

㉒ジオ（塩）ラーメン（3箱）

㉓愛・彩・華ジュース詰合せ

㉔室戸海洋深層水商品セット

㉕姫島車えび（真空パック）

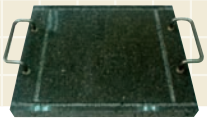
㉖特産品詰合せ（5,000円相当）

㉗阿蘇リモナイト製品セット

㉘ジオスイーツ詰合せ

㉙ちりめんじゃこ・いりこセット

㉚環霧島地域の焼酎（2本程度）


㉛溶岩万能グリル

JTB 感動のそばに、いつも。　BWT JTB Business World Travel & Solutions

JTBグループは
環境にやさしい地域づくりを応援します！

EV・PHV普通充電器の設置 全国で好評承り中!!

今なら お得です！

充電器本体、工事費が無償！

経済産業省、自動車4社の補助金、支援金により、今なら少額の設備投資で設置が可能です。

※掲載写真はイメージです。

（概要）

	Aプラン 施設様で充電器を保有する場合	Bプラン JTB保有の充電器を賃貸借の場合
事業者様のご負担内容	● 本体・設置費用の消費税・固定資産税（17万円程度） ● 保守・メンテナンス費用	◎ 設置場所のご提供と充電に伴う電気代のみ
導入時の費用	設置者様が全額を支払い、後日補助金、支援金を収受します 自動車4社からのランニング費用も立替が必要・年に2回の精算（予定）	初期費用はありません

まずは下記までお問い合わせ下さい

（株）JTBコーポレートセールス EVモビリティ観光活性化事業チーム（担当：林・数馬（かずま））

TEL 03-6737-9261　E-mail j_hayashi114@bwt.jtb.jp

または （株）JTB商事 旅館ホテル商事部（担当：河西）

TEL 03-6832-4710　E-mail shinichi-kawanishi@jtbtrading.jp

いつも新しい空を目指して。

ANA Inspiration of JAPAN

A STAR ALLIANCE MEMBER ™

国内線のお問合せ 0570-029-222（全国一律料金） 国際線のお問合せ 0570-029-333（全国一律料金） www.ana.co.jp

GEOPARK magazine 創刊第1号 特定非営利活動法人 日本ジオパークネットワーク 発行：2014年3月31日